

宇都宮城跡

— 平成24年度・25年度調査 —

平成27年3月

宇都宮市教育委員会

序

宇都宮城は、中世から戦国期を通じて約500年にわたり宇都宮氏の居城であり、江戸時代には譜代大名が次々と入封した歴史ある城です。しかし、明治時代以降開発が進められ、土塁や堀が徐々に消滅し、その姿を失ってしまいました。近年の開発により記録保存のための発掘調査が毎年数多く実施されておりますが、中世から近世にかけての貴重な遺跡が複合して存在することが確認されています。

今回、個人住宅や個人住宅兼店舗の建設に伴い影響を受けることとなった本城跡の取り扱いにつきましては、事業主をはじめ関係機関との協議のうえ、記録保存のため発掘調査を実施することとなりました。その結果、近世の南館門付近や二の丸、三の丸に関連する遺構、中世の堀跡や当時の遺物が多数確認され、宇都宮城の性格などを知る上で貴重な資料を得ることができたと考えております。

本報告書は、発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方がさまざまな方面におきまして広く活用していただけますことを期待するものであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係者各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成27年3月31日

宇都宮市教育委員会

教育長 水 越 久 夫

例 言

- 1 本報告書は栃木県宇都宮市旭2丁目、旭1丁目、中央2丁目に所在する宇都宮城跡に関する発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、個人住宅及び個人住宅兼店舗の建設に伴うもので、事業主からの依頼により宇都宮市教育委員会（以下市教委）を調査主体者とし、個人住宅については市教委が、個人住宅兼店舗に関しては、市教委と事業主が費用を負担し、調査を実施した。調査期間については、旭2丁目の現場は、平成24年7月24日～27日、旭1丁目の現場は、平成24年10月1日～5日、中央2丁目の現場は平成25年6月10日～22日に実施した。
- 3 調査対象面積は、旭2丁目の現場が約190㎡、旭1丁目の現場が約380㎡、中央2丁目の現場が約480㎡である。
- 4 本遺跡の発掘調査での測量、写真撮影等は、今平利幸、石川和弘、君島直人、前原義之、近藤真、仲沢準、手塚崇人がこれにあたった。
- 5 遺構・遺物の整理、実測などは、中山真理、倉田有子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また遺物の写真撮影は、今平利幸、近藤真、中山真理、倉田有子がこれにあたった。
- 6 本書の執筆は、第1章を近藤真が、第2章を今平利幸・前原義之が、第3章を今平利幸が担当した。
- 7 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は宇都宮市教育委員会にて保管している。
- 8 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔調査主体〕

宇都宮市教育委員会	教育長	水越久夫
	教育次長	手塚敏男 楡原貞亮
調査担当	文化課長	赤石澤亮
	文化課長補佐	鈴木光世
	文化財保護係長	富川努
	文化財保護グループ	今平利幸・石川和弘・君島直人・前原義之・近藤真・江川尚美・阿部雅子・降幡敏彦・仲沢準・手塚崇人

〔調査補助員〕

新井ミヤ子、入江タカ子、入江ツヤ子、入江晴江、入江通子、郷間久男、菅野繁、鈴木智子、住谷昭

- 9 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を表したい。（順不同、敬称略）
神戸寿海、田中健介、森川勝也

目 次

序・例言・目次・凡例

I はじめに

1 調査の経過	1
(1) 平成24年度調査 (南館門付近・二の丸)	
(2) 平成25年度調査 (三の丸)	
(3) これまでの宇都宮城跡の調査	
2 遺跡の環境	5
(1) 地理的環境	
(2) 歴史的環境	

II 調査概要

1 平成24年度調査	9
(1) 南館門付近 (第72次)	9
(2) 二の丸 (第73次)	13
2 平成25年度調査	25
(1) 三の丸 (第78次)	25

III おわりに	39
----------	----

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、遺構が1/40、1/60 (全体図) とし、遺物は1/3で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺物実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒…LR ロームブロック…LB 今市バミス…IP 七本桜バミス…SP
鹿沼バミス…KP 炭化物…C
- 4 遺構については次の略号を使用した。
竪穴建物跡…ST 竪穴住居…SI 溝…SD 土坑…SK 不明…SX

挿 図 目 次

第1図	近世宇都宮城跡想定図と本調査区	4
第2図	周辺遺跡分布図	8
第3図	第72次調査区全体図	10
第4図	遺構平・断面図	11
第5図	第72次調査区出土遺物実測図	12
第6図	第73次調査区全体図	14
第7図	1号・2号・10号断面図	15
第8図	掘立柱建物跡平・断面図	16
第9図	2号～4号平・断面図	17
第10図	7号～9号・72号・76号・79号平・断面図	18
第11図	井戸跡・柱穴平・断面図	19
第12図	第73次調査区出土遺物実測図(1)	20
第13図	第73次調査区出土遺物実測図(2)	21
第14図	第78次調査区全体図	27・28
第15図	トレンチ平・断面図	29・30
第16図	14号堀断面図	31
第17図	竪穴遺構平・断面図	32
第18図	土坑平・断面図(1)	33
第19図	土坑平・断面図(2)	34
第20図	土坑(3)・柱穴平・断面図	35
第21図	第78次調査区出土遺物実測図(1)	36
第22図	第78次調査区出土遺物実測図(2)	37
第23図	かわらけ法量図	41
第24図	中世宇都宮城調査復元図	42

表 目 次

第1表	宇都宮城跡調査一覧	3
第2表	周辺遺跡一覧表	7
第3表	第72次調査区遺物観察表	13
第4表	第73次調査区遺物観察表	22
第5表	第78次調査区遺物観察表	38

図 版 目 次

P L 1	①第72次調査区全景(西から)
	②調査区北東部遺構確認状況(西から)
	③調査区北西部遺構確認状況(南から)

	④調査区南東部遺構確認状況(北から)
	⑤調査区南側中央部遺構確認状況(南から)
	⑥調査区南側中央部の柱穴群(西から)
	⑦堀跡の土橋・柱穴確認状況(南から)
	⑧堀跡の土橋・柱穴確認状況(東から)
P L 2	①堀跡のカーブ部分確認状況(南から)
	②堀跡のカーブ部分確認状況(東から)
	③SK-04(西から)
	④SK-10と茶白出土状況(西から)
	⑤SK-10茶白出土状況(北から)
	⑥SK-09(南から)
	⑦かわらけ出土状況(東から)
	⑧SK-06(西から)

P L 3	①第73次調査区遠景(西から)
	②第73次調査区遠景(西から)

P L 4	①完掘全景(北西から)
	②完掘全景(南東から)

P L 5	①確認調査(東から)
	②1号堀(北から)
	③1号・2号セクション左(南東から)
	④1号・2号セクション右(南西から)
	⑤1号堀南側セクション(北から)
	⑥3号セクション(北から)
	⑦4号竪穴遺構(南から)
	⑧4号竪穴遺構セクション(南から)

P L 6	①29号・58号～62号・94号掘立柱建物跡(北から)
	②9号・8号・7号と柱穴群(北から)
	③5号井戸跡(南から)
	④7号セクション(北から)
	⑤8号セクション(東から)
	⑥8号遺物出土状況(東から)
	⑦調査区西側柱穴群(西から)
	⑧調査区西側柱穴群(南西から)
P L 7	①調査区西側柱穴群(南から)
	②9号・12号～15号・21号セクション(南から)

- ③調査区東側柱穴群（北側中央から）
 ④調査区東側柱穴群（北東から）
 ⑤16号～20号柱穴群（北から）
 ⑥22号遺物出土状況（南から）
 ⑦26号・27号遺物出土状況（南から）
 ⑧28号遺物出土状況（南から）
- P L 8 ①29号遺物出土状況（南から）
 ②30号遺物出土状況（南から）
 ③34号～39号（南から）
 ④70号遺物出土状況（南から）
 ⑤76号・84号・93号・94号セクション（北から）
 ⑥85号遺物出土状況と87号（東から）
- P L 9 ①第78次調査区遠景（南から）
 ②第78次調査区遠景（南から）
- P L 10 ①調査前（南西から）
 ②T-1掘削状況（北から）
 ③T-1完掘状況（北から）
 ④T-2掘削状況（南から）
 ⑤T-2完掘状況（南から）
- P L 11 ①1号セクション（東から）
 ②1号（東から）
 ③2号セクション（東から）
 ④2号（東から）
 ⑤3号（西から）
 ⑥4号（西から）
 ⑦5号（東から）
 ⑧6号（東から）
- P L 12 ①7号・8号セクション（東から）
 ②9号セクション（東から）
 ③9号と10号遺物出土状況（西から）
 ④11号・12号セクション（東から）
 ⑤12号・13号セクション（東から）
 ⑥13号（東から）
 ⑦調査第1地区（南から）
 ⑧調査第1地区（東から）
- P L 13 ①14号堀上端・19号・20号（西から）
 ②34号遺物出土状況（南から）
- ③34号遺物出土状況（南から）
 ④29号・37号（西から）
 ⑤調査第2地区（南から）
 ⑥調査第2地区（北東から）
 ⑦14号堀B-B'セクション（南から）
 ⑧14号堀A-A'セクション（南から）
- P L 14 ①14号堀A-A'セクション（南から）
 ②14号堀E-E'セクション（東から）
 ③17号・18号セクション（南から）
 ④18号（南から）
 ⑤23号セクション（南から）
 ⑥23号遺物出土状況（南から）
 ⑦26号セクション（東から）
 ⑧26号・46号（南から）
- P L 15 ①26号遺物出土状況（南から）
 ②27号セクション（東から）
 ③36号セクション（北から）
 ④36号（南から）
 ⑤40号（西から）
 ⑥45号セクション（西から）
 ⑦46号完掘状況（西から）
 ⑧52号（西から）
- P L 16 第72次調査区出土遺物
 P L 17 第73次調査区出土遺物①
 P L 18 第73次調査区出土遺物②
 第78次調査区出土遺物①
 P L 19 第78次調査区出土遺物②
 P L 20 第78次調査区出土遺物③
 P L 21 第78次調査区出土遺物④

I はじめに

1 調査の経過

(1) 平成24年度調査(第72次・第73次)

平成24年度は、宇都宮城跡内で個人住宅の建設に伴い2件の本調査を実施した。

第72次調査は、平成24年7月の旭2丁目12-16で行われた南館門付近の本調査である。(第1図調査地①)個人住宅の建設に伴い、当地において工事立会調査を実施したところ近世の南館門周辺の遺構と思われる堀跡や柱穴が確認された。

今回の住宅建設では、届出当初の図面よりも深く掘削して表層改良工事を行うことが調査時に判明した。当初の計画のように掘削の深さを浅くして遺構を保存できないかを関係者と協議したが、計画通りの工事をせざるを得ないという結論に至ったため、緊急に本調査を行った。

調査は平成24年7月24日～27日の期間で行った。調査の結果、建物の柱穴と思われる遺構や、当時の堀や土橋状の遺構が確認された。

第73次調査は、平成24年10月に旭1丁目3514-15外で行われた近世の二の丸と推定される場所の本調査である。(第1図調査地②)当地において基礎部分に柱状改良工法がとられる個人住宅の建設が予定されたため、トレンチによる確認調査を実施した。その結果、柱穴などの遺構が確認された。

今回の住宅建設では、予定通りの工事を行った場合、遺構がかなり破壊されてしまう虞があったため、発掘調査を実施し、記録保存を行った。

調査は平成24年10月1日～5日の期間で行い、中世の堀跡、中世～近世の土坑、井戸、柱穴が確認された。

(2) 平成25年度調査(第78次)

第78次調査は平成25年5月に市役所北側の中央2丁目8-7において個人住宅兼店舗の建設が計画された。(第1図調査地③)既存建物の解体時に行われた工事立会調査では埋蔵文化財と思われるものは確認できなかったが、新築工事の前に実施したトレンチによる確認調査では、堀跡や中世の土坑と思われる遺構、かわらけが数点確認された。今回の建設では、柱状改良工法が取られるため予定通りの工事を行った場合、遺構がかなり破壊される虞があったため、関係者と協議を行った。その結果、予定通りの工事を行わざるを得ないという結論に至ったことから、緊急に建物部分の発掘調査を行った。

調査は平成25年6月10日～22日の期間で行い、中世の堀跡、土坑、柱穴が確認された。

(3) これまでの宇都宮城跡の調査

本城跡は、平成元年に宇都宮市教育委員会で城址公園整備に先立つ調査が始まって以来、11次にわたる調査、及び3次にわたる市道整備に伴う調査が行われた。また、民間開発に伴う調査も西館堀跡で実施されており、断片的ではあるが城跡の内容が分かってきている。

①公園整備に伴う調査

第1次調査は平成元年度に本丸の中心部分にあたる約4,000㎡の調査を実施し、古代から中・近

世にかけての礎石、掘立柱建物跡、井戸跡、溝、柱穴、土坑などの多数の遺構が確認された。井戸跡、溝内からはかわらけがまとまって出土している。

第2次調査は平成2年度に本丸の南西部にあたる約7,000㎡の調査を実施し、近世の土塁と堀の位置が確認された。また、南北方向に中世の堀跡も確認され、埋土中から13世紀前半の時期のものと思われる多量のかわらけが出土した。

第3次調査は平成3年度に本丸の南西部にあたる約4,000㎡の調査を実施し、大規模な池状の遺構が見られたほか、土坑、井戸跡、溝跡、掘立柱建物跡、方形竪穴遺構、石組遺構等が確認された。

第4次調査は平成7年度に本丸の北西部分にあたる約5,000㎡の調査を実施し、近世の土塁があった場所からは、堀及び掘立柱建物跡が確認された。掘立柱建物跡は堀の埋没後に建てられており、少なくとも2回の建て替えが認められた。土塁の内側部分からは、中世から近現代に及ぶ遺構が確認された。

第5次調査は平成8年度に本丸の北西部分にあたる約5,000㎡の調査を実施し、古代の竪穴住居跡、中近世の堀跡、溝跡、土坑、掘立柱建物跡、井戸跡等を確認した。近世の絵図に見える堀と清水門に通ずる土橋が確認され、清明台櫓の位置もほぼ確定した。また、絵図に見える堀に先行する中世の所産と考えられる堀が確認された。

第6次調査は平成9年度に本丸の北西部分にあたる約3,000㎡の調査を実施し、堀、土塁、溝、掘立柱建物跡、井戸、土坑が確認された。今回の調査において、近世の絵図に見える堀の一部と土塁の基底部の一部が確認され、近世本丸の位置が明確になるとともに、土塁幅、堀幅を推定することができた。

第7次調査は平成10年度に本丸の北西部分にあたる約3,000㎡の調査を実施し、中・近世の堀、溝、土坑、掘立柱建物跡、井戸跡等が確認された。遺物はかわらけ、陶磁器等が出土した。

第8次調査は平成11年度に本丸南端から二の丸の一部にあたる約3,000㎡の調査を実施し、中世の遺構としては堀が4条確認された。これらは互いに切り合い関係にあり、時代が下るにしたがって幅、深さとも拡大する傾向が見られた。近世の遺構としては、本丸の堀と二の丸の堀、及びそれぞれの堀を渡るための土橋が確認された。二の丸の堀を渡るための土橋には側面に石垣が築いてあり、水位の変動による侵食から土橋を防護する機能があったものと推定される。

第9次調査は平成12年度に近世本丸と二の丸の一部分にあたる約7,400㎡の調査を実施し、主に近世の遺構を確認した。本丸西側の堀は幅が20～22m、深さが7～8mであり、地下水の湧出により湛水していたことが確認された。伊賀門については門前の土橋の一部と堀が確認され、位置の推定が可能となった。二の丸部分には中世の土坑・竪穴建物跡、近世の整地層の一部と礎石の一部が確認されたが、近世二の丸御殿の遺構は明確にできなかった。

第10次調査は平成13年度に近世本丸南西部から二の丸にかかる場所の約2,000㎡を調査し、主に本丸の堀の外側のラインを確認した。40mにわたって堀のラインが確認されると同時に、本丸南西隅にあった堀の折れの位置をほぼ推定することができた。

第11次調査は平成17～18年度に近世二の丸と、その二の丸を圍繞する土塁・堀の部分にあたる約4,000㎡の調査を実施し、井戸、土坑、掘立柱建物跡、中世の堀が確認された。近世の土塁は、原形は損なわれていたものの、高さ約3mの構築土が現存していた。土塁を取り払って、その下を調査したところ、古墳時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡、土坑、井戸、竪穴遺構が確認さ

所在地	調査区分	事業内容	調査期間	調査位置・確認された遺構
1 本丸1	公園整備1次本調査	跡本丸公園内新築工事	平成元年9月～10年10月	(本丸北東部) 水堀跡の瓦葺、中堀～近江の遺構多数
2 本丸1	公園整備2次本調査	跡本丸公園内新築工事	平成元年9月～10年10月	(本丸西側部分) 堀跡の瓦葺、堀跡のすり上げ
3 本丸1	公園整備3次本調査	跡本丸公園内新築工事	10年4月1日～10年3月31日	(本丸西側部分) 伊予の堀跡、大蔵の堀跡、方勝堀穴遺構、堀跡のすり上げ
4 本丸1-51堀	公園整備4次本調査	跡本丸公園内新築工事	17年6月21日～10年3月31日	(本丸北東部) 土堀部分、堀穴遺構など
5 本丸1-19堀	公園整備5次本調査	跡本丸公園内新築工事	19年10月11日～19年5月31日	(本丸北東部) 古代の堀穴遺跡など
6 本丸1-13	公園整備6次本調査	跡本丸公園内新築工事	19年5月31日～11年5月31日	(本丸北東部) 堀跡、土堀、堀穴遺構跡など
7 本丸1-13	公園整備7次本調査	跡本丸公園内新築工事	19年10月11日～11年5月31日	(本丸北東部) 堀跡、土堀、堀穴遺構跡など
8 本丸西3513-3堀	公園整備8次本調査	跡本丸公園内新築工事	11年9月1日～11年5月31日	(本丸西側～二の丸の一部) 堀跡4基、西宮堀4.2の堀に該当する土堀
9 本丸西堀	公園整備9次本調査	跡本丸公園内新築工事	11年2月14日～11年2月31日	(本丸西側) 中堀の土堀、堀跡と土堀部分の土堀
10 本丸西1堀	公園整備9次本調査	跡本丸公園内新築工事	11年2月6日～11年3月31日	(本丸西二の丸の一部) 堀跡と土堀、土堀、中堀の土堀、堀穴遺跡、堀跡のすり上げ
11 本丸西1-10堀	公園整備9次本調査	跡本丸公園内新築工事	11年2月12日～11年3月31日	(本丸の北門(清水門)門前・本丸西一内) 土堀、中堀の堀跡、堀穴遺跡
12 本丸西3516-10	公園整備10次本調査	堀跡の掘削調査	11年2月8日～7月5日	(本丸西側～二の丸) 堀のライン
13 本丸西内堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年3月8日～22日	堀跡の掘削調査
14 本丸西内堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年3月7日～	中堀跡の堀跡調査
15 本丸西内堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年4月1日～16日	(二の丸) 堀跡の掘削調査
16 中堀1丁堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年4月21日～	中堀跡の堀跡調査
17 中堀2丁堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年4月24日～	中堀跡の堀跡調査
18 中堀1～5-8	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年4月22日～	なし
19 堀1丁3516-57	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年4月21日～	堀跡
20 本丸西1-5-5-6	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月10日～	なし
21 本丸西1-5-5-6	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月11日～	なし
22 本丸西1-12	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月23日～	堀跡
23 本丸西3517-39	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月21日～	堀跡、堀跡
24 中堀2-4-10	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月23日～	なし
25 本丸西1-11	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月15日～	なし
26 中堀1-15-10	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年5月21日～20日	なし
27 堀2-3470-96	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年6月7日～	堀跡
28 中堀1-5-8	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年6月7日～10日	堀跡、土堀
29 中堀2丁堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年6月10日～10日	堀跡、堀跡
30 中堀2丁堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年6月11日～11日	堀跡、堀跡
31 本丸西2	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年6月14日～	なし
32 本丸西堀	公園整備2次本調査	堀跡の掘削調査	11年7月25日～11年10月13日	中堀の堀跡、土堀の土堀、古代の堀穴遺跡、堀跡、堀跡
33 中堀4-4-15	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年7月15日～	なし
34 堀1丁目内	公園整備第1次本調査	堀跡の掘削調査	11年7月15日～11年8月30日	江戸、土堀、堀穴遺跡、中堀の堀跡、古堀跡の堀穴遺跡、中堀の堀穴遺跡
35 中堀4-4-15	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月2日～	なし
36 堀1-3440-16、3440-18	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月14日～15日	堀跡、土堀
37 堀2-3470-209	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月12日～	なし
38 中堀1-6-12	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月12日～14日	なし
39 中堀2-9-9	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月12日～	なし
40 堀2-3444-1	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年8月25日、26日	堀跡
41 堀1-3440-16堀	公園整備1次本調査	マンション掘削	11年9月2日～3日	西宮堀跡、土堀跡、堀穴遺跡
42 堀1-10-11	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月2日～	なし
43 堀1-10-10-11	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月2日～	なし
44 堀1-3-1	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月22日～	なし
45 中堀1-1-32	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～17日	堀跡に伴う堀跡
46 本丸西19-18	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
47 中堀2堀1-9	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～18日	なし
48 堀1-3444-77	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	土堀の一部
49 堀1-3444-77	公園整備3次本調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～7日	西宮堀、土堀
50 中堀2-9-5堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
51 中堀1-1-7	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
52 本丸西10-10-11	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
53 中堀2丁1-3丁1堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～11月21日	なし
54 堀2-3507-16堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～21日	堀跡に伴う土堀
55 本丸西3517-68	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	本丸西側を流す水堀跡
56 堀2-3460-19堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	伊勢と堀とを繋ぐ水堀跡
57 中堀2丁1-3丁1堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
58 中堀2丁1-3丁1堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
59 中堀2丁1堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
60 堀1-3-5	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～17日	なし
61 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
62 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
63 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
64 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
65 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
66 本丸西3517-33	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
67 本丸西3518-30	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
68 本丸西3518-20	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
69 堀1-3460-5堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
70 中堀2-3-4	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
71 本丸西3518-31	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
72 堀2-12-15	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月24日～7月27日	堀跡、土堀、堀穴、土堀
73 堀1-3514-13	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～10月5日	堀跡、方勝堀穴遺跡、土堀、伊予堀、堀穴
74 堀1丁堀	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
75 本丸西3518-8	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
76 中堀1-7-14	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
77 堀2-3470-47	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
78 中堀2-8-7	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～6月22日	堀跡、土堀、堀穴
79 中堀2-8-7	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
80 中堀2丁堀内	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
81 本丸西3517-40	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
82 本丸西	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
83 本丸西3517-40	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
84 本丸西10	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
85 中堀2-8-7	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし
86 堀2-3507-5	堀跡調査	堀跡の掘削調査	11年9月11日～	なし

第1表 宇都宮城跡調査一覧

立ち上がりが確認され、土層の断面より、これは地山を掘り残したものではなく、水平に何層か盛土をして整地した上に土塁を築いていることがわかった。

③民間開発に伴う調査

この調査は、宇都宮市役所本庁舎南側のマンション建設に先立つ調査で、平成18年度に実施した。調査地区は近世の三の丸と西館堀にあたる場所で、調査の結果、西館堀跡と中世の土坑、井戸跡、溝跡が確認された。また、遺物では、かわらけ、内耳土器、陶磁器、金銅製の飾り金具などが出土した。

2. 遺跡の環境

(1) 地理的環境

宇都宮城跡は宇都宮市旭2丁目を中心に所在し、宇都宮市役所の東方約200mのところ付近に近世の本丸が位置する。遺跡の現況はビルや住宅が建ち並び、平成18年度に開園した宇都宮城址公園以外は、城跡の痕跡はほとんど見られない。これも、廃藩置県後に城跡が分割売却され、次第に市街地化していったことに伴い土塁や石垣は徐々に壊され、堀跡は埋め立てられてしまったことに起因するものと思われる。

近世の宇都宮城は東西約1.2km、南北約1kmと広大なもので、今回調査区となった南館門付近は本丸より約300m南に、二の丸付近は本丸より約50m西に、三の丸付近は本丸より約300m北西に位置する。

宇都宮城跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。市内は南流する鬼怒川・田川・姿川などによって、岡本台地・田原台地・宝木台地などが形成されている。さらに、宇都宮丘陵が市内中心部の八幡山公園に向かって南北に走っている。

宇都宮城跡は、この宇都宮丘陵の西を南北に延びる宝木台地の東端部に位置し、東と北に田川低地、西に小さな沢(低地)に挟まれた南向きの緩斜面に立地している。今回の調査区(第1図)は、標高114～116m程の平坦地に所在しており、宇都宮城跡の近世の南館門・二の丸・三の丸周辺と想定された。現状は住宅地になっており、南館門などの面影はまったく見られない。

(2) 歴史的環境

本城跡は宝木台地の東端の張り出し部に位置し、城跡より古い時代の遺跡の立地にも適しており、発掘調査により各時代の遺構・遺物が確認されている。ここでは、周辺の遺跡を第1表の一覧にしてまとめた。以下、時代ごとに周辺遺跡の概略を述べる。

① 旧石器・縄文時代

本遺跡周辺の旧石器時代の遺跡は、八幡山裏遺跡(5)が所在している。縄文時代の遺跡は、旭陵遺跡(17)、陽南荘付近A遺跡(19)、西原境遺跡(23)が所在している。

旭陵遺跡(17)では、昭和57年度の調査で縄文時代に関すると思われる遺構の検出は一つも確認されなかったが、埋土中からは多数の縄文土器片や石器類が出土している。後世の農作業における深い耕作などが原因で、縄文時代の遺構は破壊されたものと考えられる。陽南荘付近A遺跡(19)、西原境遺跡(23)では畑地などの表土上に縄文土器の破片が確認されている。

② 弥生時代

前期及び中期の遺跡は確認されていない。後期の遺跡としては、本村遺跡(22)が確認されている。平成6年度から13年度までの調査で、竪穴住居跡13軒・土坑1基が確認されている。これらの遺構より出土する土器は二軒屋式土器が大半を占めている。その他には土製紡錘車・石製多孔円盤・アメリカ式石鏃・磨製石斧などが出土している。

③ 古墳時代

本遺跡北側の宇都宮丘陵南端部は、戸祭兜塚古墳群(3)、祥雲寺境内古墳(6)、八幡山公園古墳群(7)、御蔵山古墳(8)が所在しており、古墳の密度は高い。戸祭兜塚古墳群(3)は円墳6基が散在する後期の古墳群で、兜塚は径約30m、高さ約5mである。祥雲寺境内古墳(6)は前方後円墳で、全長40m、後円部高さ約6m、前方部高さ約5mである。八幡山公園古墳群(7)は、以前かなりの数の円墳が存在していたが、その後の開発や公園化で表面からの確認は困難となっている。墳丘径約16mの円墳である1号墳に関しては平成6年度に調査を実施し、両袖式の横穴式石室を確認した。遺物については直刀・刀子・耳環・切子玉・勾玉・ガラス小玉などが出土した。御蔵山古墳(8)は前方後円墳で、全長約62m、後円部径約35m、前方部幅約35m、前方部高さ5.4mである。平成3～4年度に調査を実施し、遺物については、土師器、須恵器以外に円筒埴輪や朝顔形埴輪が出土している。

また、本遺跡南側には、陽南荘付近A遺跡(19)、本村遺跡(21)、本村古墳群(22)、西原境遺跡(23)、台内手遺跡(24)、台内手古墳群(25)、雷電山遺跡(28)、並松遺跡(29)、下栗大塚古墳(30)、下栗念仏塚古墳(32)が所在している。

本村遺跡(21)、本村古墳群(22)では、平成6年度から13年度までの調査で竪穴住居跡が1軒、円墳が2基確認されており、1号墳は径約32m、高さは約3m、2号墳は径約25m、高さ約5mである。かつては少なくとも10基以上の古墳が存在していたと思われる。遺物については竪穴住居跡から土師器の甗片や壺片、円墳からは円筒埴輪、形象埴輪、埴輪棺、銅鏡、直刀、刀子、白玉、鉄鏃などが出土しており、特に2号墳から出土した遺物は市指定となっている。

台内手古墳群(25)は円墳2基が現存している。雷電山遺跡(28)は平成2年度の調査で竪穴住居跡8軒と土坑4基が確認された。遺物は、土師器、須恵器杯のほか石製模造品などが出土している。下栗大塚古墳(30)は直径約44m、高さ約7mの円墳で、墳丘は二段になっており、中段に幅4～5mの平坦面がめぐっており、終末期に築かれたものと考えられている。

陽南荘付近A遺跡(19)、西原境遺跡(23)、台内手遺跡(24)、並松遺跡(29)では、畑地などの表土上に土師器や須恵器の破片が散在している。

また、本遺跡の本丸部分調査区及び周辺部分での調査で、古墳時代の埴輪片が出土している。

④ 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、下河原遺跡(15)、不動前3丁目遺跡(16)、不動前5丁目遺跡(18)、陽南1丁目遺跡(20)、西原境遺跡(23)、台内手遺跡(24)、ガンセンター東遺跡(27)、並松遺跡(29)、下栗念仏塚遺跡(31)が所在しており、それぞれの遺跡において畑地などの表土上に土師器や須恵器の破片が確認されている。

宇都宮城は、平安時代後半、現在の宇都宮城址公園あたりに、その後の宇都宮城の元になる「館」が築かれたといわれている。築城者は藤原秀郷とも藤原宗円ともいわれているが、確かな資料やその時期の遺構は今のところ確認されていない。

⑤ 中世

中世の城館跡としては、雷電山遺跡(28)がある。この遺跡は中世宇都宮氏の家臣、江曾島氏の居城と伝えられている。この他には中世の遺跡は確認されていないが、日光街道の周辺にあたるこの地域内には中・近世の集落が存在した可能性は否定できない。

先述したように、宇都宮城の築城時期は不明だが、今のところ、確認された遺構の中で一番古い時期のものは、平成2年度に実施された公園整備に伴う調査で確認された堀である。その堀の埋土中より13世紀前半の時期のかわらけが多量に出土した。また、別の堀からは13世紀後半に位置づけられるかわらけが多量に出土しており、鎌倉時代をとおしてこの場所が居館として使用されていたものと思われる。

南北朝期になると、宇都宮城を舞台とした戦いが文献から確認することができ、この頃から文献上では「城」という表現が使われるようになることから、前時代よりもより堅固な堀が築かれるなど防御性を高めた形態になっていったものと想定される。

戦国期にも、宇都宮城及び周辺での合戦が度々起こった。これまでの調査からも、堀が何度も掘り直された形跡が確認されていることから、15世紀末から16世紀後半に城の補修や拡張が幾度となく行われたと思われる。

№	遺跡名	所在地	時代と種別	備考
1	宇都宮城跡	本丸町1番地他	中世から近世の城館跡	本遺跡
2	動向塚	戸登2丁目4-16他	室町時代の古堀	平成3年度調査
3	戸登山夷塚古墳群	戸登町2608-3他	古墳時代の古堀	円墳6基
4	戸登尾田遺跡	戸登町3634-1他	古墳時代の築造跡	
5	八幡山夷塚	大曾2丁目600他	旧石器時代後遺跡	
6	押巻寺境内古墳	塚戸1-1-10他	古墳時代の古堀	遺長40mの前方後円墳
7	八幡山公園古墳群	堀田5-1八幡山公園内	古墳時代の古堀	多数の円墳 1号墳は平成5年度調査
8	藤原山古堀	堀田535他	古墳時代の古堀	遺長40mの前方後円墳 平成3～4年度調査 非指定史跡
9	二重山神社遺跡	馬場通り1丁目1-1	古堀・平安時代の祭祀遺跡	
10	おしどり塚	一帯町1-11他	鎌倉時代の塚跡	非指定史跡
11	籠乳氏の墓	大廻り5-310他	鎌倉時代の墓石	非指定史跡
12	餅上人塚	今泉町387-3他	江戸時代の古塚	
13	戸田氏の伝所	花房本町2他	戦国～明治時代の墓地	非指定史跡
14	前生君平兼雄碑	花房3-3他	明治時代の石碑	非指定史跡
15	下河原遺跡	西原町	奈良時代の集落跡	
16	不備前3丁目遺跡	不備前3丁目827-1他	奈良・平安時代の集落跡	
17	堀越遺跡	西原町188-3他	縄文時代の集落跡	昭和57年度調査
18	不備前5丁目遺跡	不備前5丁目743-4他	奈良・平安時代の集落跡	
19	岡田庄付近A遺跡	西原町	縄文・古墳時代の集落跡	
20	岡田丁1組跡	駒南1丁目2-691	奈良～鎌倉時代の集落跡	
21	本村遺跡	川田町44他	奈良・古墳時代の集落跡	平成6・8・9・10・13年度調査
22	本村古墳群	川田町44他	古墳時代の古堀	№21に同じ 円墳4基
23	西原堀遺跡	川田町1351他	縄文・古墳～平安時代の集落跡	
24	台内子遺跡	江曾島町台内1277他	古堀・平安時代の集落跡	
25	台内子古墳群	江曾島町台内1277	古墳時代の古堀	円墳2基
26	河原千沼遺跡	江曾島町	奈良時代の集落跡	
27	ザンセンカウ一辺遺跡	堀越5丁目12-914 他	奈良・平安時代の集落跡	
28	雷電山遺跡	江曾島3丁目754-1他	古堀・戦国時代の古堀・集落跡	平成2年度調査 石製橋造品・鏡
29	筆松遺跡	江曾島町1057他	古堀～奈良時代の集落跡	
30	下里大塚古墳	下里町1382他	古墳時代の古堀	非指定史跡 遺長30mの円墳
31	下里念仏塚遺跡	下里町念仏塚1420他	奈良時代の集落跡	
32	下里念仏塚古堀	下里町念仏塚1420	古墳時代の古堀	円墳

第2表 周辺遺跡一覧表



第2図 周辺避難分布図 (1 / 25,000)

II 調査概要

平成24年度実施の南館門付近の調査で土橋状の掘り残し部と土坑14基、溝跡1条、柱穴多数を確認した。二の丸部分の調査では、方形竪穴遺構1基、土坑8基、溝跡5条、柱穴多数を確認した。平成25年度実施の三の丸部分では、方形竪穴遺構3基、井戸跡4基、土坑16基、柱穴多数を確認した。

I 平成24年度調査

(1) 南館門付近(第72次)

土橋状遺構

調査区の西側部分で、現地表より約50cm掘り下げたところで、幅5.5mのローム地山が確認され、その東側で深さ約60cmの段差の後、平坦部分が約5m続き、さらにその先で掘り込まれる状況が確認できた(第3図B-B')。平面的には、調査区北側ラインから約6m南の場所で4m程の張り出し部が確認できた。尚、今回の調査箇所は、慶応年間(1865-68)に描かれた宇都宮御城内外絵図の南館門付近にあたる。現在、調査区西側には宇都宮城本丸に向かう南北の道が通っている。

SK06

調査区の西側に位置し、規模は長さ3.2m以上×幅0.8mの南北に長い長方形である。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、深さが確認面から40cmである。埋土状況は、ロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されている。出土遺物は無く、時期は不明である。

SK09

調査区の西側に位置し、規模は長さ1.2m×幅0.42~0.52mの東西に長い長方形である。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、深さが確認面から10cmと浅い。西壁部分は2基の柱穴と重複する。出土遺物は無く、時期は不明である。

SK10

調査区の南側に位置し、規模は長軸2.3m×短軸1.7mの楕円形である。完掘をしていないため全体的な形状はわからないが、壁は傾斜のある楕円状の形状と考えられる。埋土状況は、黒色土を主体とする自然堆積である。出土遺物は茶白片(第5図12)が出土している。前述の土橋状の遺構と重複していることから、土橋状遺構よりも古い時期の土坑と考えられる。

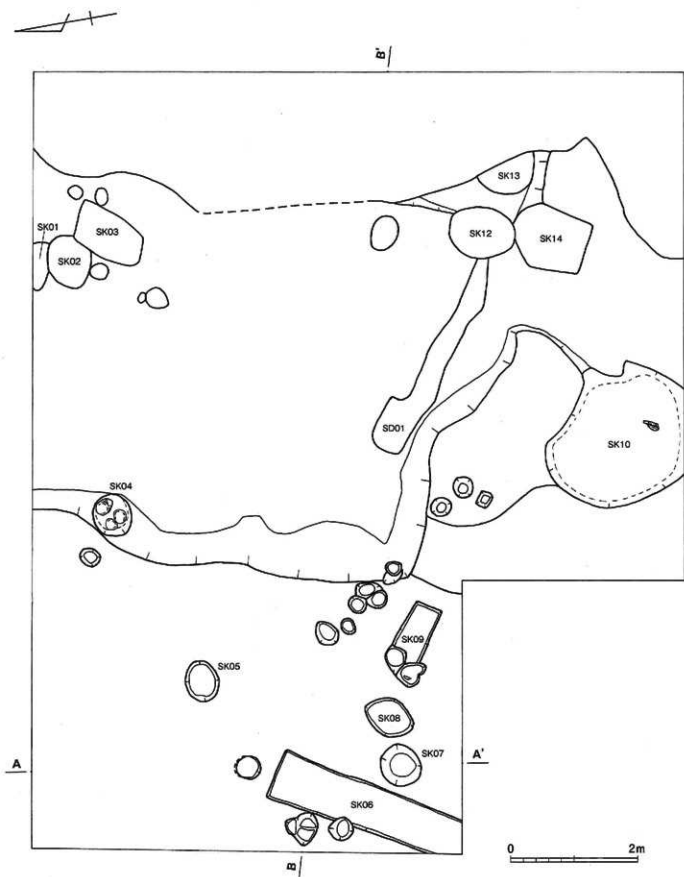
SD01

調査区の中央部分で、長さ3.4m、幅0.17~0.55mの細長い溝状遺構が確認できた。SK12に切られている。遺構は平面プランの確認のみで、遺物の出土もないことから、時期は不明である。

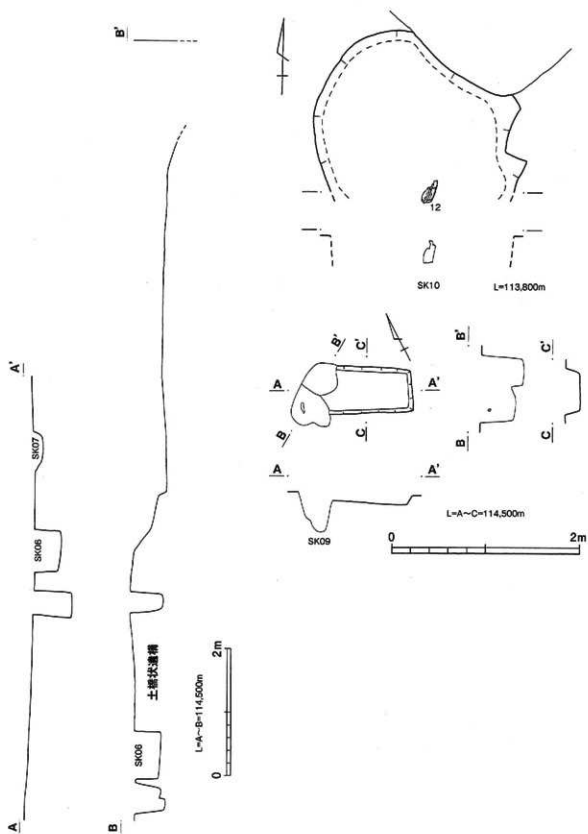
この他に、楕円形の土坑が2基(SK12・SK13)、方形の土坑(SK03・SK14)と多数の柱穴が確認されている。

出土遺物(第5図)

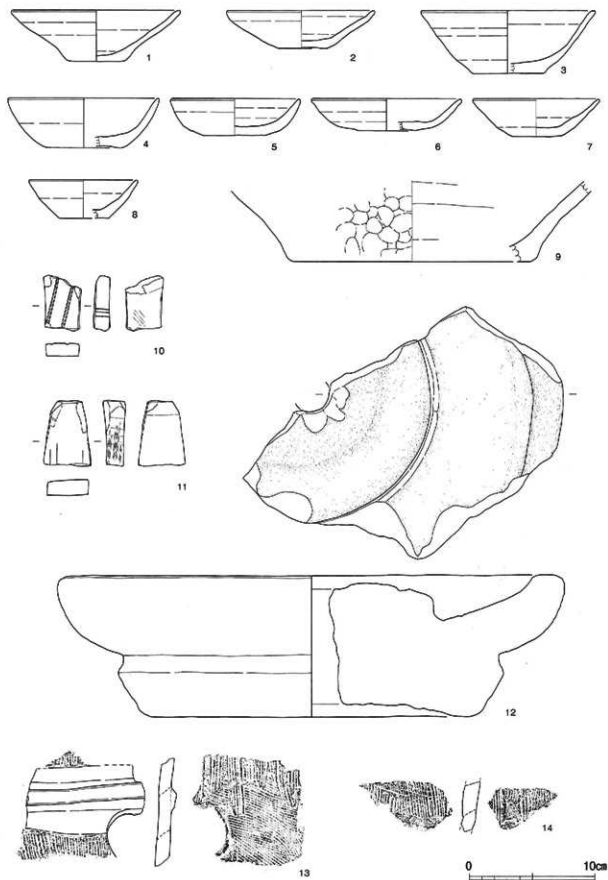
出土遺物はかわらけ8点、砥石2点、常滑壺の底部片1点のほか、埴輪片が2点確認された。埴輪は円形の透孔で、突帯があまり高くない形状から6世紀代のものと考えられる。その他の遺物は中世の時期のもので、近世に当たる遺物は確認されていない。4は底径が6cmと大きいことから14世紀代と考えられる。



第3図 第72次調査区全体図



第4図 遺構平・断面図



第5图 第72次调查区出土遗物实测图

No.	品 名	寸法 (cm)			器形の特徴	胴部の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	かわらけ	(13.4)	4.1	4.5	胴部がやや突き出し、腰部は直線的に狭く。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。板目状圧痕。	乳白色	砂散、赤色スコリア散	良好	No.1	3/4段
2	かわらけ	11.8	3.0	4.0	平底で、腰部が内湾気味に立ち上がり、口唇部を積み上げる。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。板目状圧痕。	乳白色	砂散、赤色スコリア散	良好	表採	ほぼ完成
3	かわらけ	(14.0)	5.0	5.5	平底で、腰部は外傾する。	コクロ成形、底面回転痕あり。	明褐色	砂散、白色散、赤色スコリア散	良好	表採	1/4段
4	かわらけ	(12.0)	3.9	(6.0)	平底で、腰部が内湾気味に立ち上がる。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。	淡褐色	砂散、小石、赤色スコリア散	良好	表採	灯明皿 1/4段
5	かわらけ	(10.2)	2.9	(5.0)	平底で、腰部が内湾気味に立ち上がる。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。板目状圧痕。	乳白色	砂散、黒色散	良好	表採	1/6段
6	かわらけ	(12.0)	2.5	(4.7)	やや丸底気味の底部で、腰部が内湾気味に立ち上がる。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。	淡褐色	砂散、黒色散、赤色スコリア散	良好	表採	灯明皿 1/4段
7	かわらけ	(10.2)	3.0	(4.0)	平底で、腰部は外傾する。	コクロ成形、見込み部ナシ。底面回転痕あり。板目状圧痕。	淡褐色	砂散、黒色散、赤色スコリア散	良好	表採	1/4段
8	かわらけ	(8.7)	3.0	4.0	平底で、腰部は外傾する。	コクロ成形、底面回転痕あり。板目状圧痕。	明褐色	砂散、白色散、赤色スコリア散	良好	表採	1/4段
9	応用蓋	—	—	(6.4)	平底。	外面磨ナシ、内面ナシ。	赤褐色	砂色を多く含む	良好	表採	底面破片
10	磨石	長 (4.4)	幅 2.9	厚 1.1		4面使用。2本の筋がある。		凝灰岩		表採	一部欠損
11	磨石	長 (5.2)	幅 3.7	厚 1.2		5面使用。		凝灰岩		表採	一部欠損
12	漆白	(40.0)	11.2	(25.2)	受け皿形の蓋をもつ。	目が細かい。		安山岩		S K 1 0 No.1	1/4段
13	円筒形輪				実寸高は0.3～0.5cm、円形の透孔。	外面タテハケ一次調整、内面ナシマケ・タテハケ。	淡褐色	砂散多	良好	表採	破片
14	円筒形輪					外面タテハケ、内面ヨコハケ・タテハケ。	淡褐色	砂散、赤色スコリア散	良好	表採	破片

第3表 第72次調査区遺物観察表

(2) 二の丸 (第73次)

①堀・溝跡

1号 (第7図)

調査区中央やや西側に位置し、北側と南側は調査区外に延びている。2号 (竪穴遺構)、10号 (溝) と重複し、2号を切り、10号に切られている。確認長は6mで、上幅208～232cm、深さ95cm、断面は逆台形である。

埋土は、上層、下層ともに褐色土であるが、上幅2.6m、深さ1mの上層はロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

なお、調査は一部のみであるが、かわらけ、染付茶碗、瓦それぞれの破片が出土している。

公園整備に伴う第11次調査で確認された本調査区南側の堀かつらつながるものと考えられ、中世の宇都宮城の堀の一部と思われる。

6号

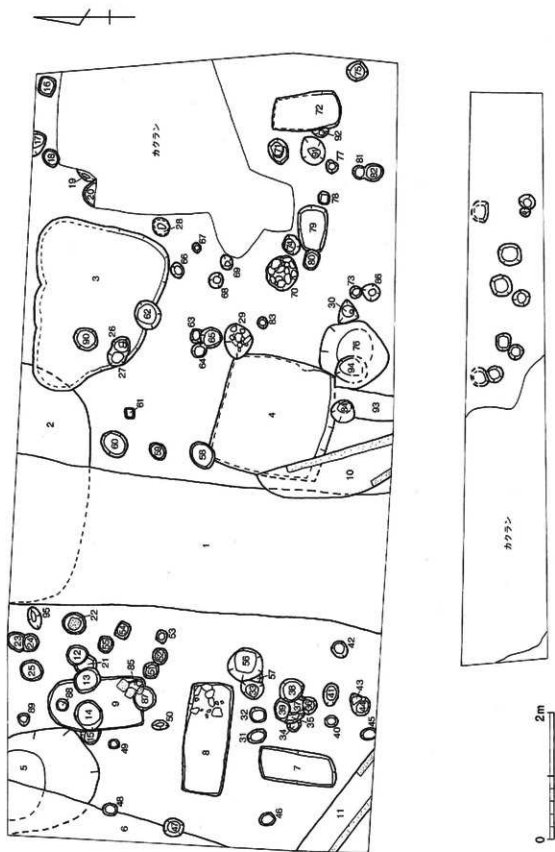
調査区西端に位置し、北側と西側は調査区外に延びている。5号 (井戸)、47号、48号と重複し、5号を切り、47号、48号に切られている。確認長は3.6mで、確認幅は70cm、深さは18cm、断面形状は逆台形である。

なお、調査が一部のみであり、遺物の出土はない。

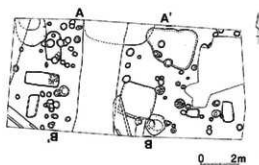
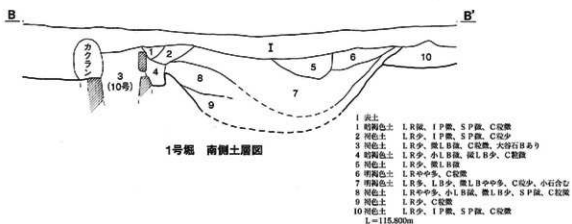
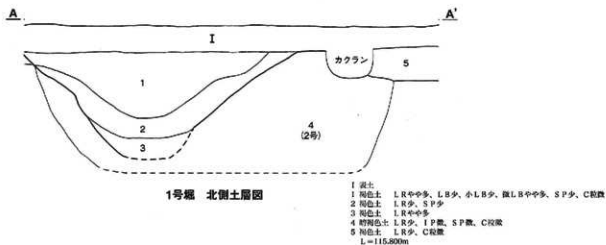
10号

調査区中央南に位置し、南側は調査区外に延びている。1号 (堀)、4号 (竪穴遺構) と重複し、ともに切っている。確認長は2.8mで、上幅は75cm、深さは54cm以上、断面形状は不明。

埋土は褐色土の単層で、溝の両側縁の一部に幅5cmの凝灰岩が据え置かれており、近代以降の



第6図 第73次調査区全体図



第7図 1号・2号・10号断面図

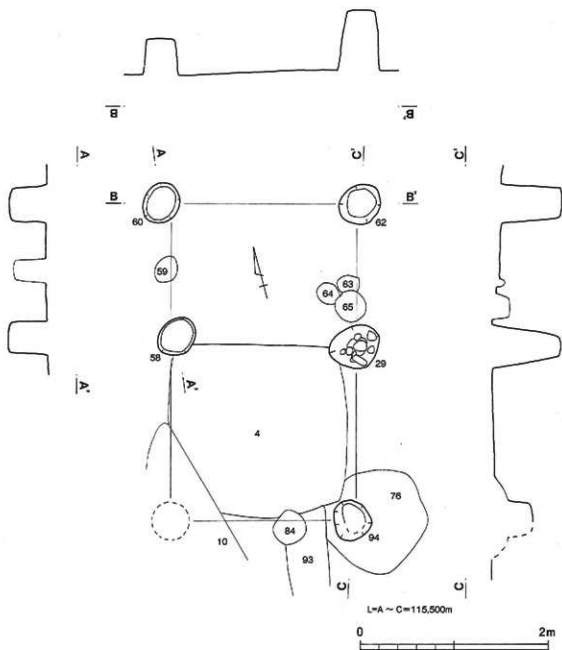
溝と考えられる。

なお、調査が一部のみであり、遺物の出土はない。

11号

調査区西端に位置し、南側と西側は調査区外に延びている。重複はない。確認長は2.1mで、上幅は50cm、深さ及び断面形状は不明。10号溝と同じく、溝の両側縁の一部に幅5cmの凝灰岩が据え置かれており、近代以降の溝と考えられる。

なお、調査が平面確認のみのため、遺物の出土はない。



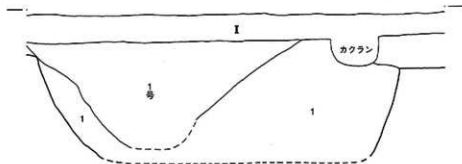
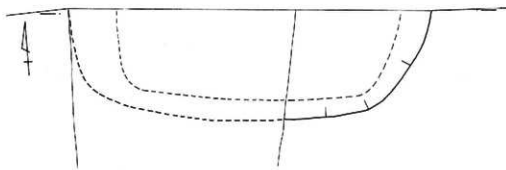
第8図 掘立柱建物跡平・断面図

②掘立柱建物跡

29号、58号、60号、62号、94号 (第8図)

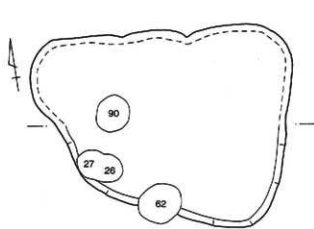
調査区中央に位置する。29号、58号は4号(堅穴遺構)と、62号は3号(土坑)と、94号は76号(土坑)と重複し、62号を除く柱穴はいずれも重複遺構を切っている。

南北に1.6m間隔で並ぶ柱穴列(北より62号、29号、94号)と、北端の62号及び2本目の29号より西2mに位置する60号並びに58号により想定した。西側が1号(堀)、10号(溝)により切られ、南側が調査区外となることから全体の確認はされていないが、2間以上×1間以上の掘立柱建物と考えられる。



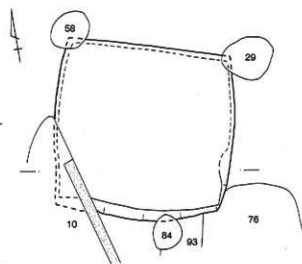
2号

I 表土
I 期褐色土 L R少、小L B数、微L B少、C数数
L=115.800m



3号

1 褐色土 L R中や中多、微L B少、C数数
2 暗褐色土 L R中や中多、微L Bや中多
3 暗褐色土 L R中や中多
L=115.500m

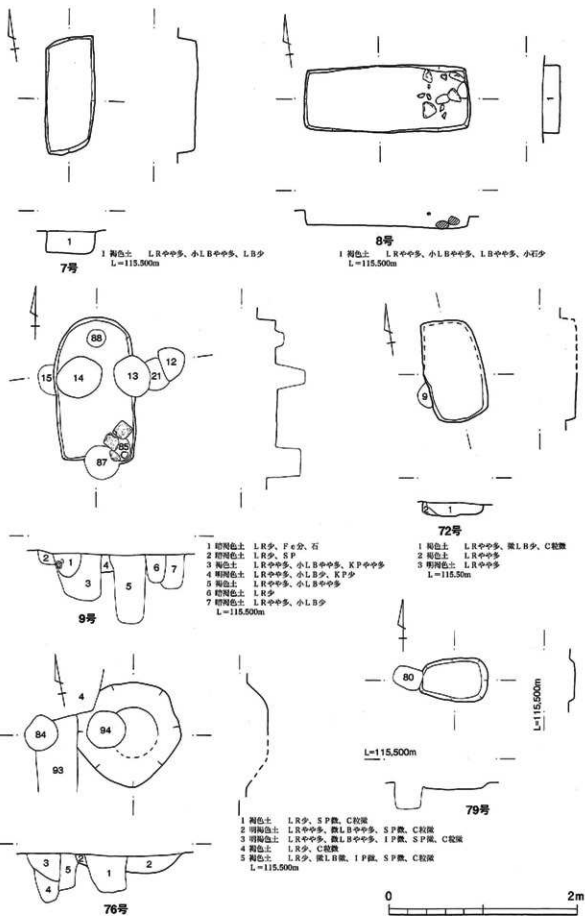


4号

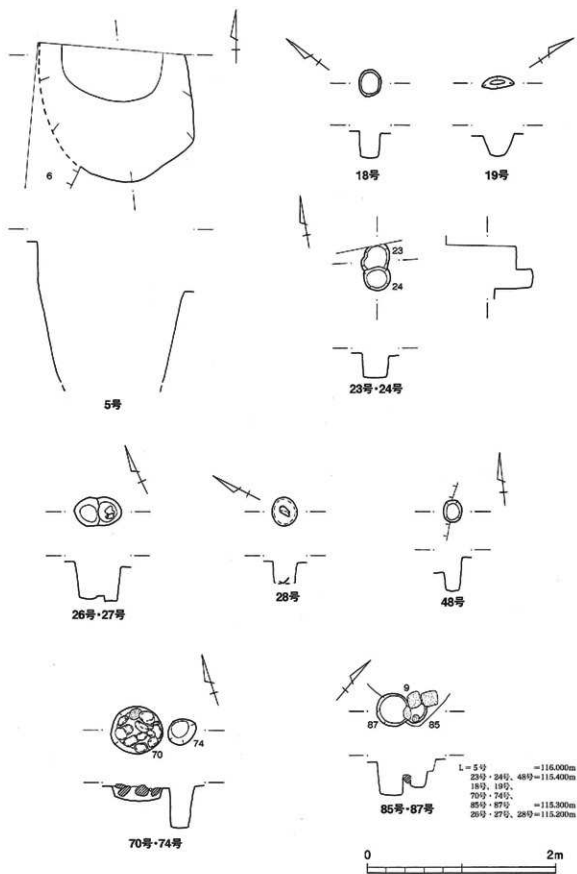
1 明褐色土 L R少、小L B数、I P数、S P数、C数数
2 明褐色土 L R少、L B数、小L Bや中多、微L Bや中多、S P数、C数数
3 暗褐色土 L R少
4 明褐色土 L R中や中多、微L Bや中多、I P数
5 褐色土 L R少、微L B少
6 褐色土 L R少、I P数、大砂石片あり
L=115.300m



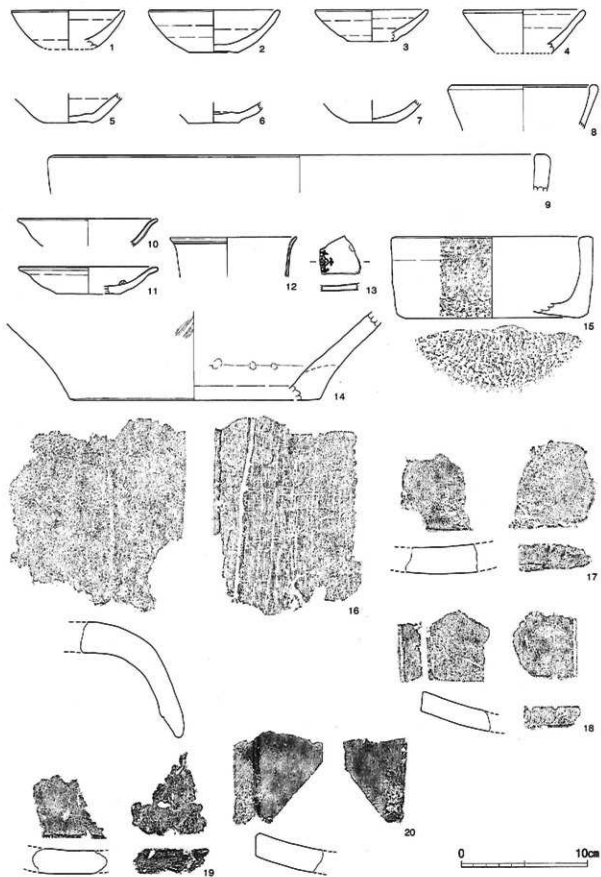
第9図 2号~4号平・断面図



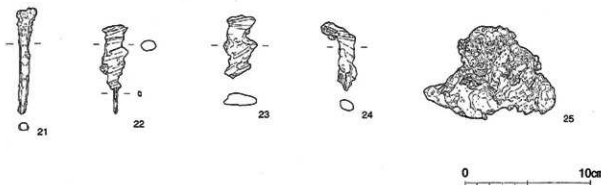
第10图 7号~9号·72号·76号·79号平·断面图



第11圖 井戸跡・柱穴平・断面圖



第12図 第73次調査区出土遺物実測図(1)



第13図 第73次調査区出土遺物実測図(2)

柱の掘り方は、平面が円形もしくは楕円形で、29号が径45～55cmと大きいほかは、径40cm前後の大きさである。また、深さは、29号が70cm、62号が63cmと若干深いほかは、深さ40cm程度である。

また、29号からは確認面で石11個がまとめて出土しているほか、58号からは内耳土器(第12図9)の破片やかかわらけの破片が、60号からはかわらけの破片が出土している。

遺構の時期は不明であるが、中世宇都宮城の堀と思われる1号(堀)に近いことから、中世の堀が埋められた後の建物と考えられる。

③竪穴遺構

2号(第9図)

調査区中央北端に位置する。1号(堀)、3号(土坑)と重複し、ともに切られている。平面は方形と考えられ、規模は、上面幅が東西3.78m、南北の確認長は1.12mである。深さ120cm以上で、断面は逆台形と考えられる。

埋土は、暗褐色土の単層であるが、下層までは確認されていない。

なお、土師器の甕、環、かわらけそれぞれの破片が出土したが、図示し得なかった。

遺構の性格は不明であるが、中世の宇都宮城の堀と思われる1号(溝)に切られていることから、中世の中でも古い時期の遺構と考えられる。

4号(第9図)

調査区中央に位置する。10号(溝)、29号、58号、76号、93号と重複し、76号、93号を切り、10号、29号、58号に切られている。平面は方形で、規模は、上面幅が東西1.9m、南北1.8mである。深さ70cm以上で、壁面は垂直に立ち上がる。

埋土は、上層が明褐色土、下層が褐色土であるが、上層はロームブロックやローム粒を多く含み、石も含まれることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。

なお、調査が一部のみであり、遺物の出土はない。

遺構の性格や時期は不明であるが、29号、58号、60号、62号、94号で想定される掘立柱建物跡より古い遺構と考えられる。

No.	器 種	寸法 (cm)			重量 (g)	器形の特徴	装束の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	器径								
1	かわらけ	(9.0)	—	(4.0)	平底で、体部は中や内肉気味に立ち上がる。	ロクロ成形。	淡褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	3号	1/4枚	
2	かわらけ	(10.4)	3.4	4.0	平底で、体部は中や内肉気味に立ち上がる。	ロクロ成形。見込み薄ナデ。肩部回転糸切り。板目状圧痕。	乳白色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	20号 №1	1/2枚	
3	かわらけ	(9.0)	3.0	(4.0)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形。回転糸切り。	明褐色	砂粒、赤色粒、赤色スコリア粒	良好	表層	1/6枚	
4	かわらけ	(9.7)	(3.5)	(4.4)	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。回転糸切り。板目状圧痕。	乳白色	砂粒、赤色粒、赤色スコリア粒	良好	表層	1/6枚	
5	かわらけ	—	—	(3.8)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形。回転糸切り。板目状圧痕。	淡褐色	砂粒、小石、赤色スコリア粒	良好	1号	1/4枚	
6	かわらけ	—	—	(4.0)	平底。	ロクロ成形。見込み薄ナデ。回転糸切り。板目状圧痕。	明褐色	砂粒、白・赤色粒、赤色スコリア粒	良好	19号	1/2枚	
7	かわらけ	—	—	(3.8)	平底で、体部は中や内肉気味に開く。	ロクロ成形。回転糸切り。板目状圧痕。	淡褐色	砂粒、白・赤色粒、赤色スコリア粒	良好	74号	1/4枚	
8	瓦質陶	(12.0)	—	—	体部は内肉気味する。	ロクロ成形。	黒褐色	砂粒、白色粒	良好	85号	1/6枚	
9	内耳土器	(40.0)	—	—	口縁部が平肌。	口縁部コナデ。	内：褐色 外：黒褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	58号	口縁部破片	
10	青磁陶	(11.0)	3.9	(6.0)	口縁部は外反する。		オリーブ灰色	緻密	良好	18号	口縁部破片	
11	黒戸磁灰皿	(11.0)	2.2	(5.5)	平底で、体部は中や内肉し、口縁部は外反する。	ロクロ成形。肩部回転糸切り。	乳白色 オリーブ色	緻密	良好	23号	1/6枚	
12	染付け茶碗	(10.5)	—	—	口縁部は外反する。		白色	緻密、透明釉	良好	1号	1/8枚	
13	染付け皿	—	—	—	器底縁部が。		白色	緻密、透明釉	良好	1号	破片	
14	常滑焼	—	—	(20.0)	平底で、体部は外肉気味に開く。	外肉ナデ、内面ナデ。	赤褐色	砂粒	良好	5号	底面破片	
15	香炉	(16.0)	7.5	(14.0)	口縁部は平肌。平底で、体部は垂直に立ち上がる。	内外面コナデ。外面体部～肩部直目跡。新登き作り。	黒褐色	砂粒、赤色スコリア粒、金雲母片	良好	28号 №1	1/5枚	
16	瓦瓦					外面ナデ、内面直目跡。新登き作り。	淡褐色～暗褐色	中や緻密	良好	1号		
17	平瓦					内外面ナデ。	暗褐色	中や緻密	良好	1号		
18	平瓦					内外面ナデ。	暗灰色	中や緻密	良好	1号		
19	平瓦						灰オリーブ	緻密、白色粒	中や良好	表層		
20	平瓦						暗灰色	中や緻密	良好	表層		
21	鉄製品 (釘)	長 (8.4)	幅 1.7	厚 (0.6)	10.8						12号	
22	鉄製品 (釘)	長 (7.9)	幅 2.5	厚 (0.6)	9.1						48号	
23	鉄製品 (不明)	長 (4.9)	幅 3.6	厚 (0.6)	9.3						48号	
24	鉄製品 (不明)	長 (8.4)	幅 1.4	厚 (0.6)	7.8						48号	
25	鉄片				145.5						9号	

第4表 第73次調査区遺物観察表

④井戸跡

5号 (第11図)

調査区北西端に位置する。6号(溝)と重複し、切られている。断面は漏斗状で、平面は円形と考えられ、規模は直径106cmである。(調査が一部のみであるため、確認面の直径及び深さは不明。)

埋土は褐色土で、ロームブロックやローム粒を多く含み、石も含まれることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。

また、遺物では常滑壺片(第12図12)が出土しているほか、かわらけ、陶器の破片が出土している。

遺構の時期は不明である。

⑤土坑

3号(第9図)

調査区中央やや東側の北端に位置する。2号(竪穴遺構)、26号、27号、62号、90号と重複し、いずれも切っている。平面は不整形で、規模は、東西最長部が274cm、南北最長部が210cmである。また、確認面からの深さは5~7cmで、とても浅い。

埋土は褐色土の単層で、ロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物ではかわらけ(第12図1)や陶器の壺(常滑系)の破片が出土しているが、遺構の性格や時期は不明である。

7号(第10図)

調査区南西部に位置する。重複はない。平面は南北に長い長方形で、規模は、上幅が東西52cm、南北120cmである。深さ24cmで、断面は箱形である。北側に、同じ規模の東西に長い土坑(8号)及び南北に長い土坑(9号)がある。

埋土は褐色土の単層で、ロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

なお、かわらけの破片が出土したが、図示し得なかった。

遺構の性格や時期は不明である。

8号(第10図)

調査区西部に位置する。重複はない。平面は東西に長い長方形で、規模は、上幅が東西176cm、南北71cmである。深さ17cmで、断面は箱形である。南側及び北側に、同じ規模の南北に長い土坑(7号、9号)があるが、3つの土坑の中では一番大きい土坑である。

埋土は上層は褐色土の単層で、ロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

また、調査は一部のみであるが、土坑内東側に石12個が集中して出土した。

遺構の性格や時期は不明である。

9号(第10図)

調査区北西部に位置する。13号、14号、15号、85号、87号、88号と重複し、13号、14号、85号に切られている(他の新旧関係は不明)。平面は北側に丸みを帯びた南北に長い長方形で、規模は上幅が東西83cm、南北150cmである。深さ22cmで、断面は箱形である。南側に、同じ規模の南北に長い土坑(7号)及び東西に長い土坑(8号)がある。

埋土は褐色土の単層で、ロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

なお、かわらけの破片が出土したが、図示し得なかった。また、土坑内南東部に石4個が出土したが、これらの石は85号に伴うものと思われる。

遺構の性格や時期は不明である。

72号 (第10図)

調査区南東部に位置する。92号と重複し、切っている。平面は南北に長い長方形で、規模は、上幅が東西58cm、南北109cmである。深さ15cmで、断面は箱形である。

調査区西側に確認された7号、8号、9号と似た長方形の土坑であるが、これら3つの土坑と離れており、一番小さい。

埋土は褐色土の単層であるが、7号、8号、9号とは異なり、自然堆積と考えられる。

なお、遺物はかわらけの破片が出土したが、図示し得なかった。

遺構の性格や時期は不明である。

76号 (第10図)

調査区南東部に位置する。4号(竪穴遺構)、93号、94号と重複し、93号を切り、94号に切られている(4号との新旧関係は不明)。平面は円形で、規模は、上幅東西直径が113cmである。深さ20cmで、断面は逆台形である。

埋土は明褐色土の単層で、ロームブロックやローム粒を多く含み、人為的に埋め戻されたと考えられる。

なお、調査が一部のみであり、遺物の出土はない。

遺構の性格や時期は不明であるが、29号、58号、60号、62号、94号で想定される掘立柱建物跡より古い遺構と考えられる。

79号 (第10図)

調査区南東部に位置する。80号と重複しているが、新旧関係は不明。平面は東西に長い長方形で、規模は、上幅が東西70cm、南北46cmである。確認面からの深さ7cmで、とても浅い。

遺物の出土はなく、遺構の性格や時期は不明である。

⑥柱穴 (第11図)

確認調査トレンチから10基、本調査区からは81基の柱穴が確認された。本調査区の一部、29号、58号、60号、62号、94号から想定される掘立柱建物跡については先に述べたとおりである。他にも掘立柱建物の柱穴と考えられるものがあるが、その組合せに関しては不明である。

いくつかの柱穴からは遺物が出土しており、19号(第12図6)、26号(第12図2)、74号(第12図7)のかわらけの破片をはじめ、85号から瓦質の土器片(第12図8)が、さらには18号から青磁碗片(第12図10)、23号から瀬戸端反皿片(第12図11)、28号からは香炉片(第12図15)が出土している。また、48号からは鉄製品3点(第12図22~24)が出土している。

石が多く出土した柱穴もあり、29号からは11個、70号からは14個、85号からは5個の石がまともに確認されたほか、22号からは大きな石が確認されている。

2 平成25年度調査

(1) 三の丸 (第78次)

本調査区は、三の丸西側で宇田門の東側に位置する。想定では西館堀の北辺が入り込む位置に当たる。三の丸は、17世紀までは上級家臣の屋敷が配置され、その後、勘定所や用屋敷などの藩役所が建てられ、幕末には「城主居住新殿」と絵図にあることから、城主の家族を迎え入れるための新しい御殿が建てられたエリアである。

①堀

調査の結果、調査区の北側から西側にかけて、絵図に表れない堀を確認することができた(14号)。断片的な調査であるため、不明な部分が多いが、上幅6m以上、深さ2m以上の東西方向の箱堀が約9m確認でき、調査区西側でクランクし、約7m南側に折れたところで立ち上がる。この部分は、上幅約2.5m、確認面からの深さ2.3m、下幅0.2mの薬研堀と規模や形状が東西方向と異なるが、切り合い関係は見られず、同一の堀と判断される。T-2のセクションから、約60cmの造成土(Ⅰ層)下に黒褐色土(Ⅱ層)、暗褐色土(Ⅲ層)の整地層が確認できる。堀はⅡ層の整地層にバックされていることから、Ⅲ層の整地層とほぼ同時期に開口していたものと考えられる。

②方形竪穴遺構

1号は調査区の北西隅で確認された。一部であるため全体像がわからないが、T-1のセクションでわかるように垂直に立ち上がる壁から方形竪穴遺構と考えられる(第17図)。竪穴の深さは70cmで、Ⅲ層の整地層からの掘り込みである。埋土状況は、小石や石を多く含み、人為的に埋め戻されたことがわかる。覆土中から16世紀代と考えられるかわらけが1点出土している(第21図1)。

3号は1号の約5m南に位置する(第14図)。1号と同様に垂直に立ち上がる壁であることから方形竪穴遺構と考えられる。T-1のセクションからⅢ層の整地層の下からの掘り込みである。よって、1号よりも3号の方が古い時期のものと判断される。近現代の井戸により切られているため、規模は不明であるが、1辺が約3m、深さ60cmと推測される。埋土は、人為的な埋め戻しである。出土遺物は無い。

49号は3号の東約1mに位置する。北西角を14号により切られる。南北2.7m、東西2.2mのやや南北に長い方形を呈する(第17図)。確認面からの深さは50cmである。壁際に直径20cmの柱穴が3箇所確認できた。出土遺物がないため時期は不明であるが、切り合い関係が、45号を切り、14号に切られていることから、45号→49号→14号の順となる。

③井戸跡

2号は、調査区北西隅に位置する。規模は長軸1m、短軸0.74mで円形を呈する。Ⅱ層の整地層下から掘り込まれている。また、1号の方形竪穴遺構に切られていることから、それ以前の時期の遺構となる。

36号は、調査区のほぼ中央に位置する。規模は長軸0.92m、短軸0.83mで、円形を呈する。壁面には足掛け穴と思われる横穴が確認できた。

40号は、調査区の東側中央に位置する。規模は長軸1.5m、短軸1.3mで、円形を呈する。北側に隣接して現代の井戸が掘られている。

52号は、36号の西側約3mのところに位置する。切り合い関係から、14号の堀に切られ、49号の方形竪穴遺構を切る。

④土坑

南北方向と東西方向に長い土坑が確認できた。

9号は調査区のほぼ中央に位置する。規模は長軸1.8m、短軸0.42m、確認面からの深さ0.6mで、南北方向に細長い長方形を呈する(第18図)。断面はやや壁面はオーバーハングしている。覆土中よりかわらけが1点(第21図3)出土している。

12号は、9号の南1.5mのところに位置する。規模は長軸2.5m、短軸1.3m、確認面からの深さは0.2mで、東西方向に長い長方形を呈する。断面逆台形(第18図)。

17号と18号は、9号の西3mのところに位置する。17号の規模は長軸1.3m、短軸0.4m、確認面からの深さは0.6mで、南北方向に長い長方形を呈する。断面はオーバーハングしている。18号の規模は長軸1.9m、短軸0.65m、確認面からの深さは0.7mで、南北方向に長い長方形を呈する。断面はオーバーハングしている。切り合い関係は18号を17号が切る(第18図)。両者とも人為的に埋め戻されている。出土遺物は無い。

23号は17号の西隣に位置する。規模は長軸1.2m、短軸0.4～0.8m、確認面からの深さは0.2mで、南北方向に長い不整形を呈する。断面はU字形を呈する(第18図)。柱穴により切られる。出土遺物は内耳土器が1点出土している(第21図29)。

25号は調査区南端中央に位置する。規模は長軸0.8m、短軸0.55m、確認面からの深さは0.4mで、方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がる(第19図)。柱穴により切られる。覆土中よりかわらけが1点出土している(第21図12)。

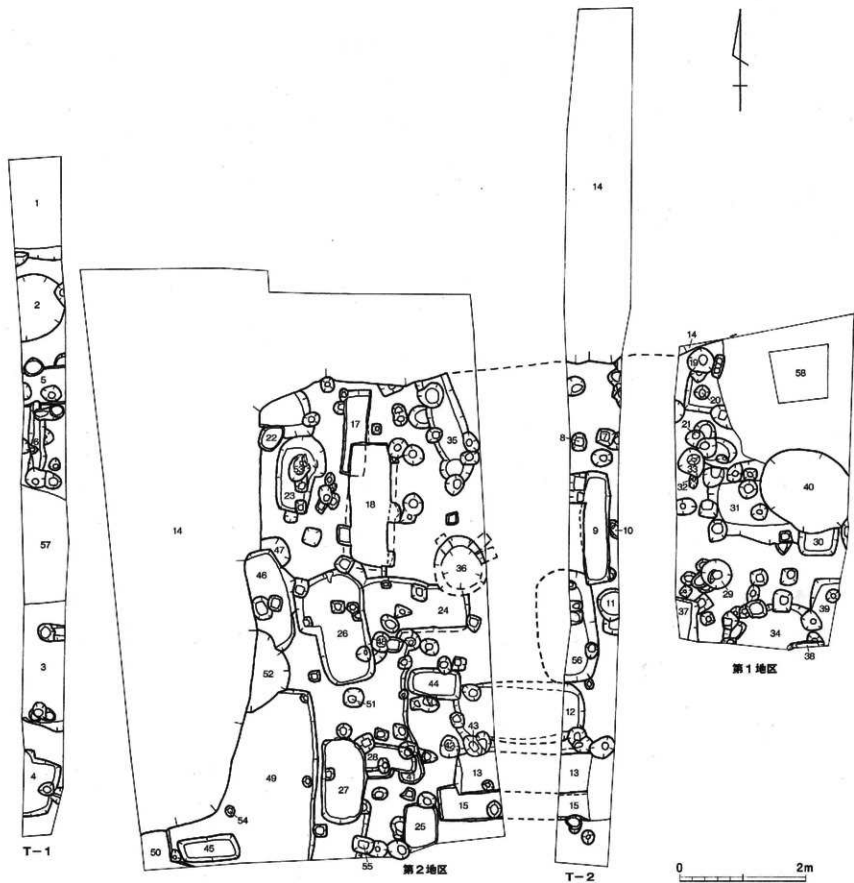
26号は18号の南隣に位置する。規模は長軸1.8m、短軸0.8～1.1m、確認面からの深さは0.4mで、南北方向に長い長方形を呈する。断面は逆台形を呈し、人為的に埋め戻されている(第19図)。出土遺物は火鉢が1点出土している(第22図33)。

27号は49号の東隣に位置する。規模は長軸1.3m、短軸0.8m、確認面からの深さは0.4mで、南北方向に長い間丸長方形を呈する。断面は逆台形を呈し、人為的に埋め戻されている(第19図)。出土遺物は無い。

31号は調査区東側に位置する。規模は長軸1.2m、短軸1～1.3m、確認面からの深さは0.36mで、東西方向にやや長い方形を呈する。断面は逆台形を呈し、人為的に埋め戻されている(第19図)。30号及び40号に切られる。出土遺物は無い。

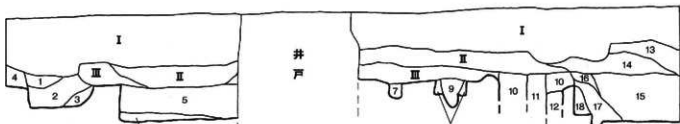
35号は調査区東側に位置する。規模は長軸1.7m、短軸0.6m、確認面からの深さは0.3mで、東西方向に細長い長方形を呈する。断面は逆台形を呈する(第20図)。14号に切られる。出土遺物は無い。

41号は調査区南側に位置する。規模は長軸0.43m、短軸0.4m、確認面からの深さは0.4mで、円形を呈する。断面は逆台形を呈する(第20図)。28号に切られる。出土遺物は無い。



第14图 第78次調査区全体图

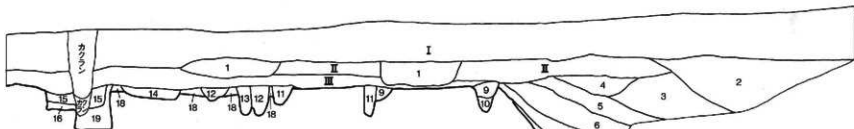
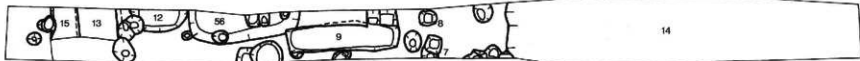
T-1



- 1 遺構土 L.R.中中多、小L.R.少、小石少
 2 遺構土 L.R.中中多、L.R.少、C.P.、粘質、中中硬くしまる
 3 黄褐色土 L.R.少、小L.R.少、小石、粘質
 4 黄褐色土 L.R.中中多、粘質
 5 黄褐色土 L.R.少、粘質
 6 黄褐色土 L.R.中中多、L.R.少、小石少、粘質
 7 黄褐色土 L.R.少、L.L.少、粘質
 8 黄褐色土 L.R.少、ローム小L.R.中中多、中中硬くしまる

- 9 暗褐色土 L.R.中中多、中中硬くしまる
 10 黄褐色土 L.R.中中多、L.L.中中多、硬くしまる
 11 暗褐色土 L.R.少
 12 暗褐色土 L.R.中中多
 13 暗褐色土 L.R.少、小石少
 14 黄褐色土 L.L.粘質
 15 暗褐色土 小石、粘質多く混入
 16 暗褐色土 小石少
 17 暗褐色土 L.R.少
 18 黄褐色土 L.R.、L.L.中中中中多、硬くしまる
 L=115.400m

T-2

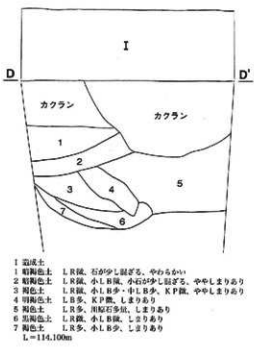
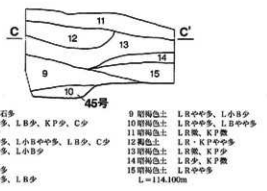
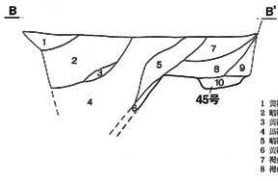
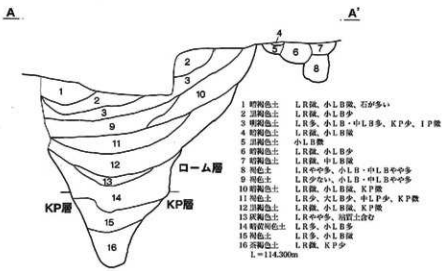
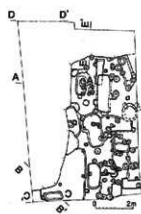


- 1 遺構土 L.R.中中多、L.L.中中多、小石少
 2 暗褐色土 L.R.中中多、L.R.少、K.P.・C.P.、小石少
 3 黄褐色土 小石、粘質多く含む
 4 暗褐色土 小石、粘質多く含む、粘質
 5 黄褐色土 L.R.中中多、粘質
 6 黄褐色土 L.R.中中多、L.L.中中多、小石少、K.P.少
 7 黄褐色土 L.R.中中多、L.L.中中多、K.P.少
 8 黄褐色土 L.R.中中多、L.L.中中多、K.P.少

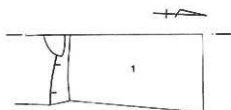
- 9 暗褐色土 L.R.少、L.L.中中多
 10 黄褐色土 L.R.中中多、粘質
 11 暗褐色土 L.R.中中多
 12 暗褐色土 L.R.中中多、K.P.少、C.P.少
 13 黄褐色土 L.R.中中多、L.L.中中中中多、K.P.少
 14 暗褐色土 L.R.中中多、L.L.中中多、C.P.少、小石少
 15 暗褐色土 L.R.少、L.L.中中多、小石少
 16 暗褐色土 L.L.粘質、小石少
 17 暗褐色土 L.R.少
 18 黄褐色土 L.L.粘質、S.P.粘質
 L=115.400m

0 2m

第15図 トレンチ平・断面図

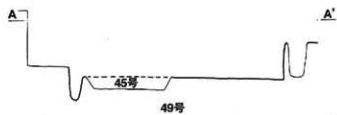
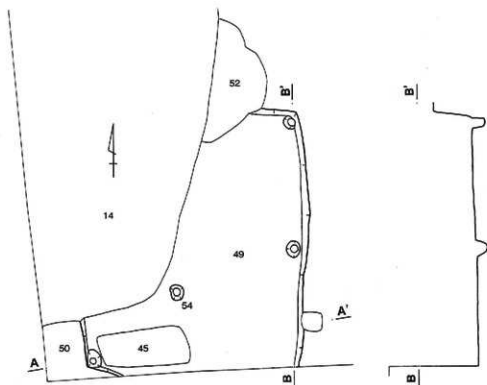


第16図 14号掘断面図



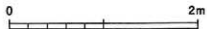
1号

- 1号
 1 新褐色土 小石、石が少く混入
 2 褐色土 小石少
 3 新褐色土 L少
 4 旧褐色土 L.R、L小石やや多、軽くしまる
 L=115.400m

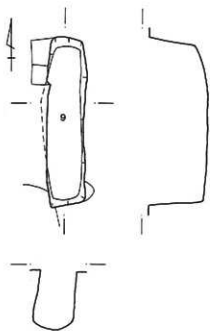


49号

L=114.100m

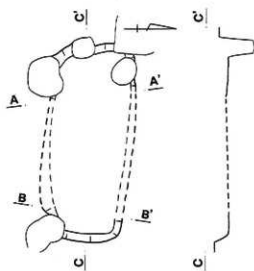


第17図 竪穴遺構平・断面図



9号

L=114.300m

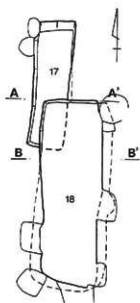


A A'

B B'

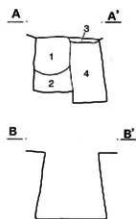
12号

1 暗褐色土 L,R少, L<B少, C少, 小砂少
L=A-A', C-C'=114.300m
L=B-B' =114.400m



17号-18号

1 暗褐色土 L,R少, 小L,B少, 垂直砂あり
2 暗褐色土 L,R少, 小L,B微, 中L,B多あり
3 暗褐色土 L,B微, 中L,B多あり
4 暗褐色土 L,R少
L=114.300m

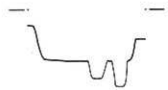
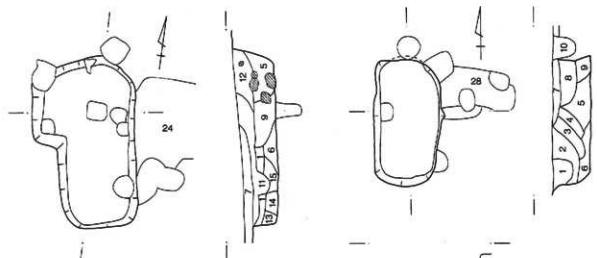


23号

1 暗褐色土 L,R微, 小L,B微
2 暗褐色土 小L,B微
3 暗褐色土 L,R微, 小L,B少
4 暗褐色土 L,R微, 中L,B微
5 暗褐色土 L,R中多, 小L,B・中L,B中多
L=114.300m

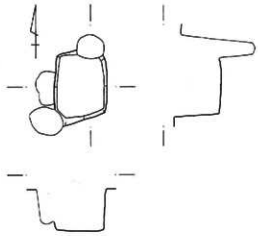


第18图 土坑平・断面图(1)



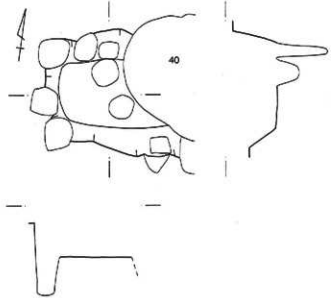
26号

- 26号・27号
 1 灰褐色土 L,B多
 2 褐色土 L,R中多, L小B少, C微, KP微
 3 暗褐色土 L,R・L小B少, L,B少
 4 暗褐色土 L,R中多, L小B少
 5 黄褐色土 L,B多
 6 深褐色土 L,R, L,B少
 7 暗褐色土 L,R中多
 8 深褐色土 L,R少, L小B中多
 9 暗褐色土 L,B多
 10 暗褐色土 L,R・L少B中多
 11 暗褐色土 L,R少, KP微, 小石少
 12 黄褐色土 L,R微, C少
 13 暗褐色土 L少, L小B少
 14 暗褐色土 L,R少
 15 灰褐色土 L,R少
 L=114.200m



25号

L=114.300m

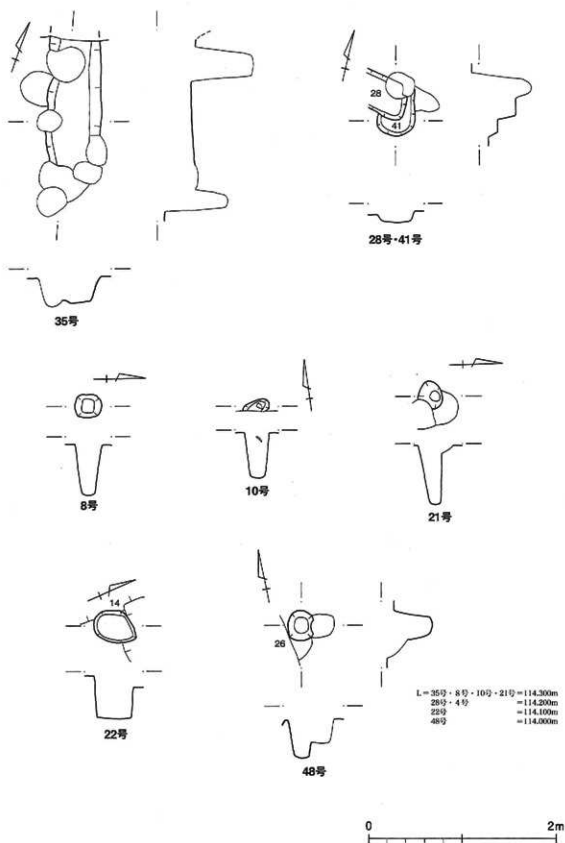


31号

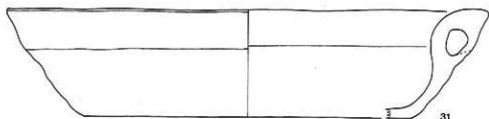
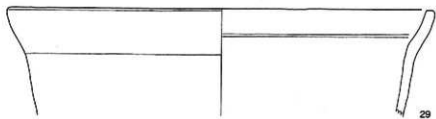
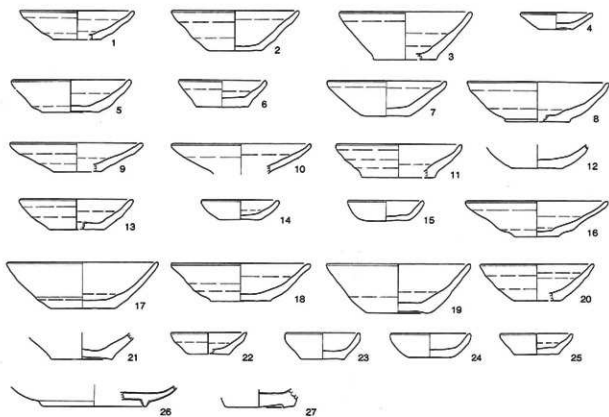
L=114.400m



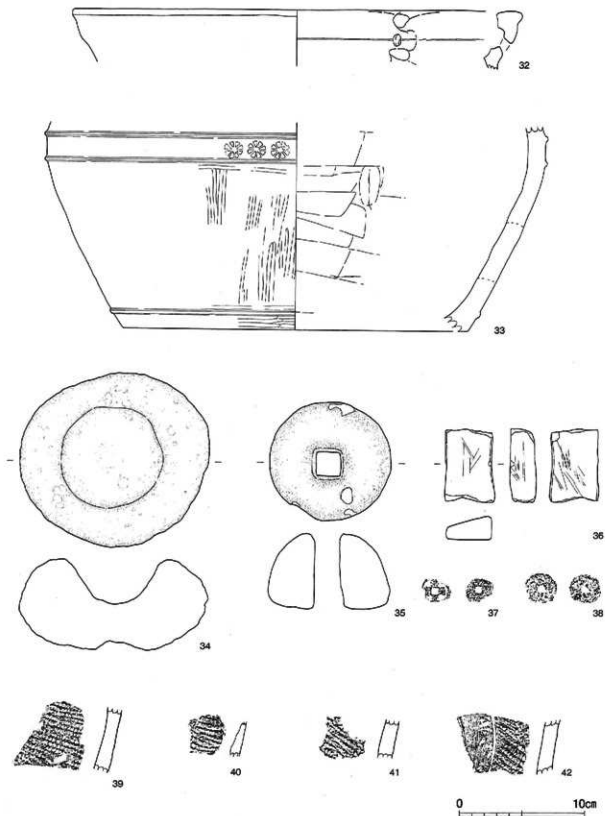
第19圖 土坑平・断面圖(2)



第20图 土坑(3)·柱穴平·断面图



第21图 第78次調査区出土遺物実測図(1)



第22图 第78次調査区出土遺物実測図(2)

No.	番 種	寸法 (cm)			器形の特長	調製の特長	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	かわらけ	(9.0)	2.3	(3.8)	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒、黒色炭。	良好	1号	灯明皿 1/4皿
2	かわらけ	(10.0)	3.2	4.2	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒、黒色炭、赤色スコリア粒	良好	8号	1/3皿
3	かわらけ	(10.6)	3.5	(5.0)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、黒色炭	良好	9号	1/3皿
4	かわらけ	5.8	1.4	2.8	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表採	ほぼ円形
5	かわらけ	9.5	2.6	4.5	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	10号	3/4皿
6	かわらけ	(7.0)	2.2	4.0	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	乳白色	砂粒、黒色炭	良好	12号	1/2皿
7	かわらけ	(9.5)	2.5	(4.0)	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、底部回転糸切り、ナデ。	明褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	14号№1	1/3皿
8	かわらけ	(11.3)	3.2	(5.0)	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	明褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	14号C区	灯明皿 1/4皿
9	かわらけ	(10.5)	2.3	(3.8)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、底部回転糸切り、板目状研削。	褐色	砂粒、白色炭	良好	14号C区	1/3皿
10	かわらけ	(11.0)	—	—	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	乳白色	砂粒、黒色炭	良好	21号	1/4皿
11	かわらけ	(10.0)	2.6	(3.8)	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、底部回転糸切り。	乳白色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	21号	1/4皿
12	かわらけ	—	—	—	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	底部回転糸切り、板目状研削。	褐色	砂粒、黒色炭、赤色スコリア粒	良好	25号	1/3皿
13	かわらけ	(9.0)	2.4	(4.2)	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、底部回転糸切り、板目状研削。	褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	31号	1/2皿
14	かわらけ	(6.2)	1.6	(3.3)	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒	良好	31号	1/4皿
15	かわらけ	6.1	1.6	3.5	丸みを帯びた平底で、体部は内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	黒色	砂粒	良好	48号	ほぼ円形
16	かわらけ	(11.4)	2.8	(3.5)	平底で、体部は直線的に開き、口唇部を積み上げる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒	良好	表採	灯明皿 1/3皿
17	かわらけ	(12.0)	3.7	(5.0)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	黄褐色	砂粒	良好	表採	1/4皿
18	かわらけ	(11.0)	3.0	4.8	平底で、体部は直線的に開き、口唇部は中や反する。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、小石	良好	表採	3/4皿
19	かわらけ	(11.5)	3.9	5.0	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り。	灰褐色	砂粒	良好	表採	2/3皿
20	かわらけ	(9.0)	2.9	(3.7)	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、回転糸切り。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表採	1/4皿
21	かわらけ	—	—	—	平底。体部は内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表採	体底部のみ
22	かわらけ	(6.0)	1.7	(3.3)	平底で、体部は内筒気味に立ち上がる。	底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表採	1/3皿
23	かわらけ	(6.0)	2.1	(3.5)	平底で、体部は内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、黒色炭	良好	表採	灯明皿 受盤
24	かわらけ	6.4	1.9	3.7	平底で、体部は中や内筒気味に立ち上がる。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	にぶい黄褐色	砂粒、黒色炭	良好	表採	3/4皿
25	かわらけ	5.8	1.6	3.5	平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ成形、見込み器ナデ、底部回転糸切り、板目状研削。	灰褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表採	3/4皿
26	有蓋皿 (蓋付)	—	—	(8.2)	高台付。	全面的に透明釉がかかる。	灰色	磁滑	良好	表採	1/4皿
27	無蓋皿 (蓋付)	—	—	5.5	割り出し高台。	内面にうすい釉輪がかかる。	灰褐色	中や磁滑	良好	表採	底部のみ
28	内耳土器	—	—	(30.0)	平底。外面スス付台。	内外両ナデ。	内：暗赤褐色 外：黒褐色	砂粒、白色炭	良好	14号	1/6皿
29	内耳土器	(33.6)	—	—	口縁部は平皿。外面スス付台。	内外両口縁部コナデ。内外両体部ナデ。	内：赤褐色 外：黒褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	23号	1/6皿
30	内耳土器	—	—	(24.0)	平皿。外面スス付台。	内外両ナデ。	内：暗褐色 外：黒褐色	砂粒、白色炭	良好	53号№2	1/6皿
31	内耳土器	(38.4)	8.7	(26.0)	口縁部は平皿。平皿。外面スス付台。	内外両口縁部コナデ。体部ナデ。	内：暗褐色 外：黒褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	表採	1/6皿
32	内耳土器	(36.0)	—	—	口縁部は平皿。外面スス付台。破損した把手部中央に穿つ。	内外両口縁部コナデ。内外両口縁部コナデ。	内：暗褐色 外：黒褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	表採	1/8皿
33	丸鉢	—	(16.3)	(27.4)	平皿。	腹部外面に2本。器底内面に1本の深い実付がのこり。頸部外面に縦向のスタンプ痕が認められる。体部外面は黒いミガキ。内面はヘラナデ。	赤褐色～灰褐色	砂粒、白色炭、赤色スコリア粒	良好	26号№1	1/6皿
34	石製品 (不明)	径	高		まんじょう形で、中心に正方形の孔が開く。				安山岩	34号№1	
35	石製品 (鉄)	径	高		器底にもくぼみあり。				安山岩		
36	磁石	(5.8)	3.8	1.8					磁灰岩	表採	5面使用
37	古銭 (西武宮)									表採	明 (1388年)
38	古銭 (不明)									11号	
39	縄文土器					L.R.縄文。			良好	35号	断面片
40	縄文土器					L.R.縄文。			良好	41号	断面片
41	縄文土器					L.R.縄文。			良好	52号	断面片
42	縄文土器					L.R.縄文。沈殿によって縄文等と縄文を区分する。			良好	52号	断面片

第5表 第78次調査区遺物観察表

III おわりに

平成24年度の第72次調査では、土橋状の遺構が確認できた(第24図b)。ほとんどの絵図で二の丸裏門を出ると東西方向の道があり、西館門に向う手前で、南館門に向う南北方向の直線的な道が描かれている。今回の調査地点は南館門周辺に当たることから、南館門の土橋部分の一部の可能性も考えられるが、多くの絵図が南館曲輪内の西寄りに南館門が描かれていることから、今回の調査地点の1本西側の通りに位置していたものと思われる。以後述べるが、今回出土した遺物のほとんどが中世のものであり、14世紀代の遺物も確認されていることから考えると、中世期の土橋遺構の可能性が指摘できる。また、江田郁夫氏によると、「宇都宮城の西館・南館の起源が中世宇都宮城までさかのぼる可能性はたかい」(江田1999)としており、このことから中世の南館に関係する虎口の可能性が考えられる。なお、江田氏は近世宇都宮城本丸南門が「伊賀門」と呼ばれていることから、芳賀伊賀守との関連があるとし、この付近に芳賀氏の屋敷があったと想定されている点は注目される。

本地点での出土遺物は、かわらけ、常滑甕、茶白1、砥石2点など出土している。第23図は、宇都宮城出土のかわらけの法量図である。2164号、2002号、2001a号～c号は、宇都宮城本丸地区の調査の際に確認された遺構である。遺構の切り合い関係や共伴遺物などから、2164号→2002号→2001b号→2001c号→2001a号の順となる。第5図1は2002号、第5図4は2164号、第5図7・8は2001c号と法量が類似する。2164号は14世紀代、2002号は15世紀後半、2001c号は16世紀中葉に位置付けられることから、この地区は14世紀～16世紀にかけて中世宇都宮城の一部として使用され、土坑や柱穴のほとんどは、その時期のものと思われる。

なお、埴輪片が出土していることから、この周辺に古墳時代の古墳が存在していた可能性が高い。

平成24年度の第73次調査においては、中世の堀、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、土坑、近代以降の溝跡などが確認できた。今回の調査区付近は、明治39年発行の『宇都宮市真景図』には建物が1軒描かれているのみであるが、大正13年発行の『宇都宮市街地付近図』を見ると、私立盲啞学校が建っている。江戸時代の二の丸は城主の居住地となっているが、今回の調査区部分は特に建物等の表記も無いことから、特別な施設はなかった可能性も考えられる。なお、現在、宇都宮城を描いた絵図としては一番古いと考えられる前田徳會寺尊經閣文庫蔵の「野州宇津宮之図」には「金蔵」と書かれた長屋風の建物が3棟描かれている。

南北方向の1号堀(第24図F)は、方形竪穴遺構の可能性のある2号を切り、大谷石を伴う10号溝に切られている。この堀は、平成17年度に南側の緑道建設に伴う調査で確認された27号堀と規模や形状が類似することから、同一の遺構の可能性がある。

本地点での出土遺物は、かわらけのほか瀬戸端反皿や染付皿、瓦が出土している。第12図2～4のかわらけは、第23図に示すように、本丸部分調査区内の2001C号堀内出土のものに類似する。尚、この堀は16世紀に位置付けられている。瓦は平瓦と丸瓦が出土し、付近に瓦葺の建物が存在していたことが想定でき、中世期の遺構となれば、中世の宇都宮城内にあった瓦葺建物として注目される。

平成25年度の第78次調査は、三の丸西側の宇田門東側に位置し、想定では西館堀の北辺が入り込む位置に当たる。三の丸は、17世紀までは上級家臣の屋敷が配置され、その後、勘定所や用屋

敷などの藩役所が建てられ、幕末には「城主居住新殿」と絵図にあることから、城主の家族を迎え入れるための新しい御殿が建てられたエリアである。また、明治時代になると、陸軍の鎮台の建物が建てられた。地表面から50～60cmの厚さの造成土（1層）が確認され、近代以降のものと考えられる。この時期の遺構としては、1層を切っている55号と56号の井戸が挙げられる。

II層上面が近世の時期の遺構面と考えられるが、特にその時期を示す遺構は確認できなかった。慶応年間（1865～68）の様子を描いたとされる『宇都宮城内外絵図』では道路部分（黄色に色彩された部分）に当たるとみられる。

14号堀（第24図E）は、このII層が乗っていることから、近世以前の堀と考えられる。現在、宇都宮城を描いた絵図としては一番古いと考えられる前田徳育会尊経閣文庫蔵の「野州宇津宮之図」にもこの堀を見出すことができないことから、中世もしくは近世初頭に遡る可能性のある堀であると想定される。また、出土している第21図7～9のかわらけも16世紀代に位置付くものと考えられる。

今回確認された遺構のほとんどは、III層もしくはその下からの掘り込みであることから、中世の時期に遡る遺構と考えられる。特に柱穴跡が多く見られたことから、数時期にわたり建物が建てていたことがわかる。

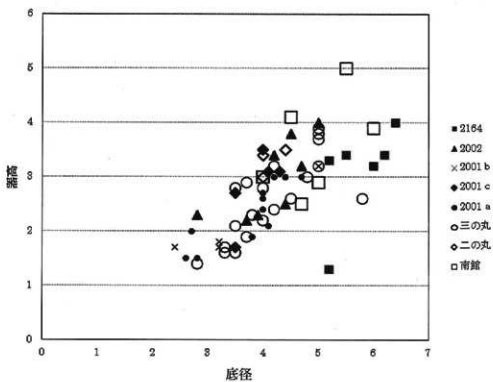
本地点での出土遺物は、かわらけ、内耳土器、火鉢、礫石、古銭が出土している。かわらけは、第23図に示すように、2002号、2001 a～c号のものに類似する。また、内耳土器も深目のタイプから浅目のタイプまでが確認されている。尚、遺構に伴わないが、明銭の「洪武通宝」も表採されている。これらのことから15後半～16世紀を中心とした時期の遺構と考えられる。

第24図は今回の調査で確認された堀と今までの調査でわかった16世紀後半に位置付けられる堀の位置関係を示した図である。宇都宮城は、宇都宮台地の東側縁辺部に位置する。AとBとCとした堀は、規模や断面形状が近似することから図で示したように主郭部分を囲む堀と考えられる。また、その北側のDとした堀は小規模な堀であるが、15世紀末～16世紀にかけて掘りかえしが見られるもので、方形に区画されていたものと考えられる。今回見つかったEはそれらの外側に位置する堀と考えられ、中世宇都宮城が堀によって幾重にも防御されていたことが明らかとなった。また、今回の堀EはL字状にクランクをし、南側で途切れていることから、aの部分が土橋となり西側に開口する虎口であった可能性が指摘できる。尚、bの部分も土橋状の遺構が確認され、南側に開口する虎口と考えられる。

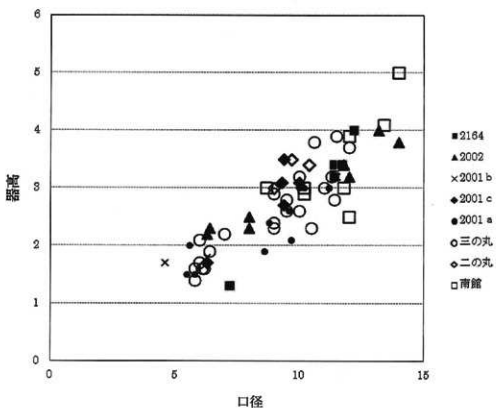
（参考文献）

- 江田都夫 1999 「中世都市宇都宮について」『栃木県立文書館研究紀要』第3号栃木県立文書館
栃木県立博物館 2006 『名城 宇都宮城 ーしろとまちの移り変わりー』
内田書店 1924 『宇都宮市街地付近図』
集英堂 内山港三郎 1906 『宇都宮市真景図』
今平利幸 2013 「掘り出された宇都宮氏の中世館・城郭」『中世宇都宮氏の世界』

15・16世紀ロクロかわらけの底径と器高



15・16世紀ロクロかわらけの口径と器高



第23図 かわらけ法量図



第24圖 中世宇都宮城縄張り復元図

写 真 图 版



①第72次調査区全景（西から）



②調査区北東部遺構確認状況（西から）



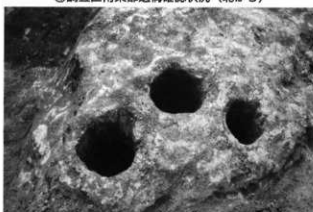
③調査区北西部遺構確認状況（南から）



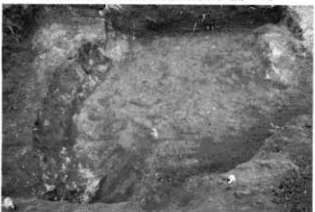
④調査区南東部遺構確認状況（北から）



⑤調査区南側中央部遺構確認状況（南から）



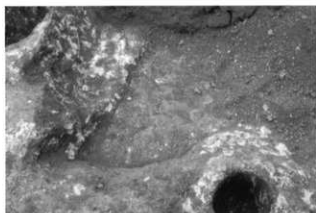
⑥調査区南側中央部の柱穴群（西から）



⑦堀跡の土橋・柱穴確認状況（南から）



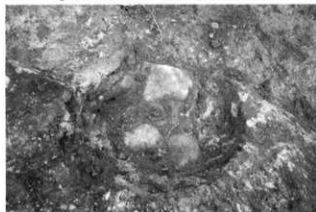
⑧堀跡の土橋・柱穴確認状況（東から）



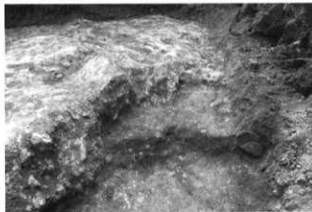
①堀跡のカーブ部分確認状況 (南から)



②堀跡のカーブ部分確認状況 (東から)



③SK-04 (西から)



④SK-10と茶臼出土状況 (西から)



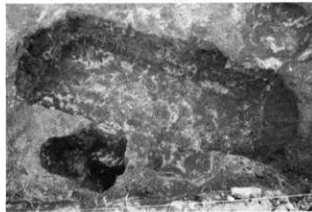
⑤SK-10茶臼出土状況 (北から)



⑥SK-09 (南から)



⑦かわらけ出土状況 (東から)



⑧SK-06 (西から)



①第73次調査区遠景（西から）



②第73次調査区遠景（西から）

PL4



①完掘全景（北西から）



②完掘全景（南東から）



①確認調査 (東から)



②1号堀 (北から)



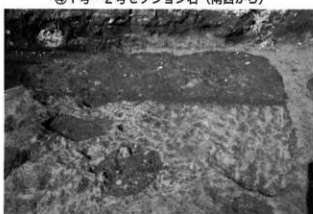
③1号・2号セクション左 (南東から)



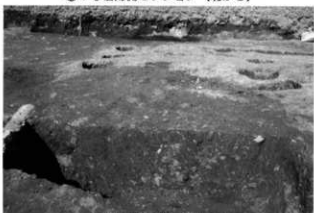
④1号・2号セクション右 (南西から)



⑤1号堀南側セクション (北から)



⑥3号セクション (北から)



⑦4号竪穴遺構 (南から)



⑧4号竪穴遺構セクション (南から)



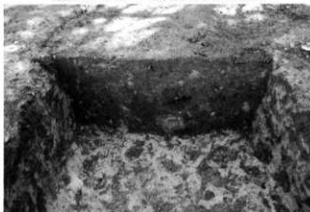
①29号・58号～62号・94号掘立柱建物跡（北から）



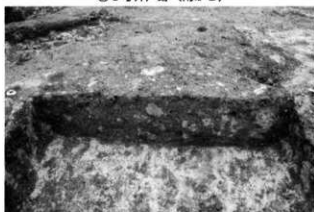
②9号・8号・7号と柱穴群（北から）



③5号井戸跡（南から）



④7号セクション（北から）



⑤8号セクション（東から）



⑥8号遺物出土状況（東から）



⑦調査区西側柱穴群（西から）



⑧調査区西側柱穴群（南西から）



①調査区西側柱穴群 (南から)



②9号・12号～15号・21号セクション (南から)



③調査区東側柱穴群 (北側中央から)



④調査区東側柱穴群 (北東から)



⑤16号～20号柱穴群 (北から)



⑥22号遺物出土状況 (南から)



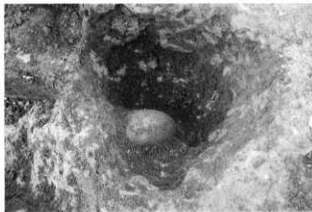
⑦26号・27号遺物出土状況 (南から)



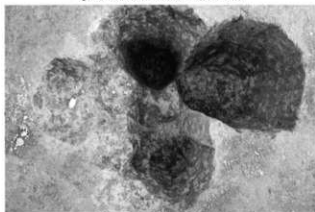
⑧28号遺物出土状況 (南から)



①29号遺物出土状況 (南から)



②30号遺物出土状況 (南から)



③34号～39号 (南から)



④70号遺物出土状況 (南から)



⑤76号・84号・93号・94号セクション (北から)



⑥85号遺物出土状況と87号 (東から)



①第78次調査区遠景（南から）



②第78次調査区遠景（南から）



①調査前 (南西から)



②T-1掘削状況 (北から)



③T-1完掘状況 (北から)



④T-2掘削状況 (南から)



⑤T-2完掘状況 (南から)



①1号セクション (東から)



②1号 (東から)



③2号セクション (東から)



④2号 (東から)



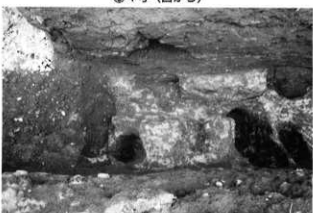
⑤3号 (西から)



⑥4号 (西から)



⑦5号 (東から)



⑧6号 (東から)



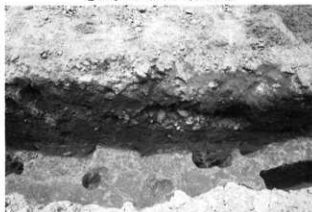
①7号・8号セクション (東から)



②9号セクション (東から)



③9号と10号遺物出土状況 (西から)



④11号・12号セクション (東から)



⑤12号・13号セクション (東から)



⑥13号 (東から)



⑦調査第1地区 (南から)



⑧調査第1地区 (東から)



①14号掘上端・19号・20号 (西から)



②34号遺物出土状況 (南から)



③34号遺物出土状況 (南から)



④29号・37号 (西から)



⑤調査第2地区 (南から)



⑥調査第2地区 (北東から)



⑦14号掘B-B'セクション (南から)



⑧14号掘A-A'セクション (南から)



①14号堀A-A'セクション (南から)



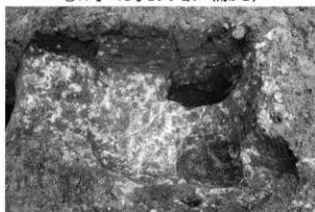
②14号堀E-E'セクション (東から)



③17号・18号セクション (南から)



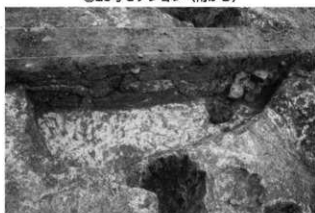
④18号 (南から)



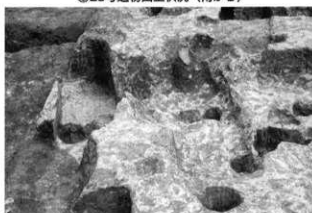
⑤23号セクション (南から)



⑥23号遺物出土状況 (南から)



⑦26号セクション (東から)



⑧26号・46号 (南から)



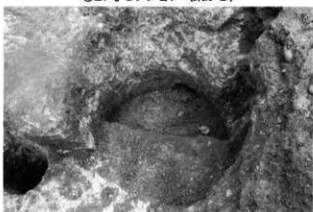
①26号遺物出土状況 (南から)



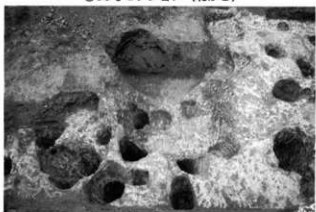
②27号セクション (東から)



③36号セクション (北から)



④36号 (南から)



⑤40号 (西から)



⑥45号セクション (西から)

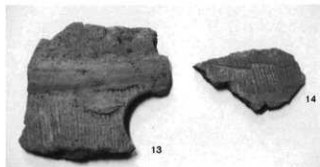
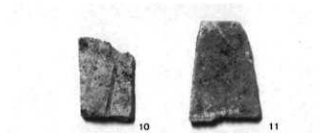


⑦46号完壁状況 (西から)

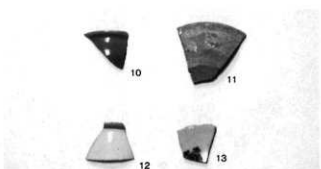
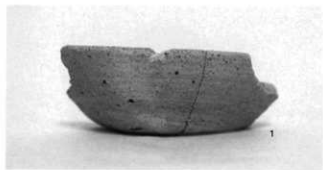


⑧52号 (西から)

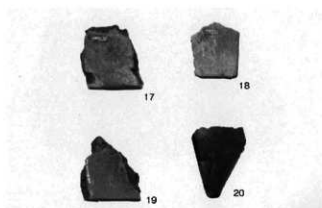
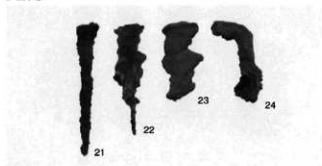
PL16



第72次調査区出土遺物



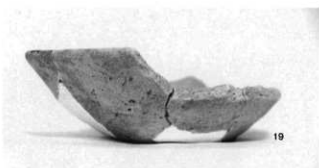
第73次調査区出土遺物①



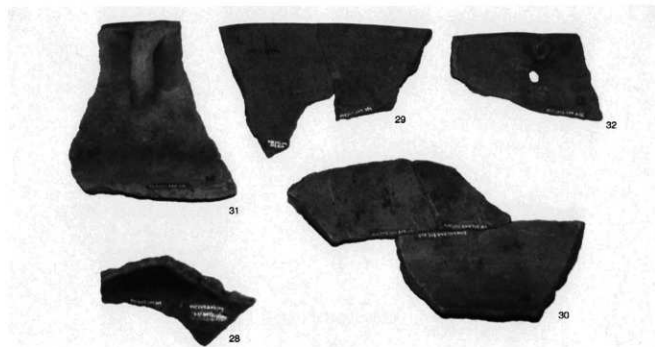
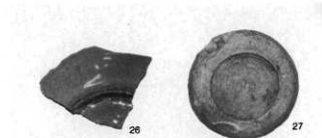
第73次調査区出土遺物②



第78次調査区出土遺物①



第78次調査区出土遺物②





34



35



39



40



37



38



41



42

第78次調査区出土遺物④

報 告 書 抄 録

ふりがな	うつのみやじょうせき
書名	宇都宮城跡
副書名	平成24年度・25年度調査
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第90集
編著者名	今平利幸 前原義之 近藤真
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2015年(平成27年) 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うつのみやじょうせき 宇都宮城跡	うつのみやし 宇都宮市 あさひ 旭2丁目 12-16	09201	3261	36度 55分 20秒	139度 88分 51秒	20120724 ～ 20120727	188	個人住宅 建設に先 立つ調査
	うつのみやし 宇都宮市 あさひ 旭1丁目 3514-15外	09201	3261	36度 55分 51秒	139度 88分 42秒	20121001 ～ 20121005	380	個人住宅 建設に先 立つ調査
	うつのみやし 宇都宮市 ちゅうおう 中央2丁目 8-7	09201	3261	36度 55分 60秒	139度 88分 32秒	20130610 ～ 20130622	485	個人住宅 兼店舗建 設に先立 つ調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
宇都宮城跡	城館跡	中世～近世	土橋状遺構 堀・溝跡 方形堅穴遺構 土坑	1基 7条 4基 38基	かわらけ、茶臼、 常滑甕、砥石、 香炉、内耳土器、 火鉢、石製品、 鉄製品等	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第90集

宇都宮城跡

—平成24年度・25年度調査—

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL. 028-632-2764

発行日 平成27年3月31日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL. 028-656-3655
